

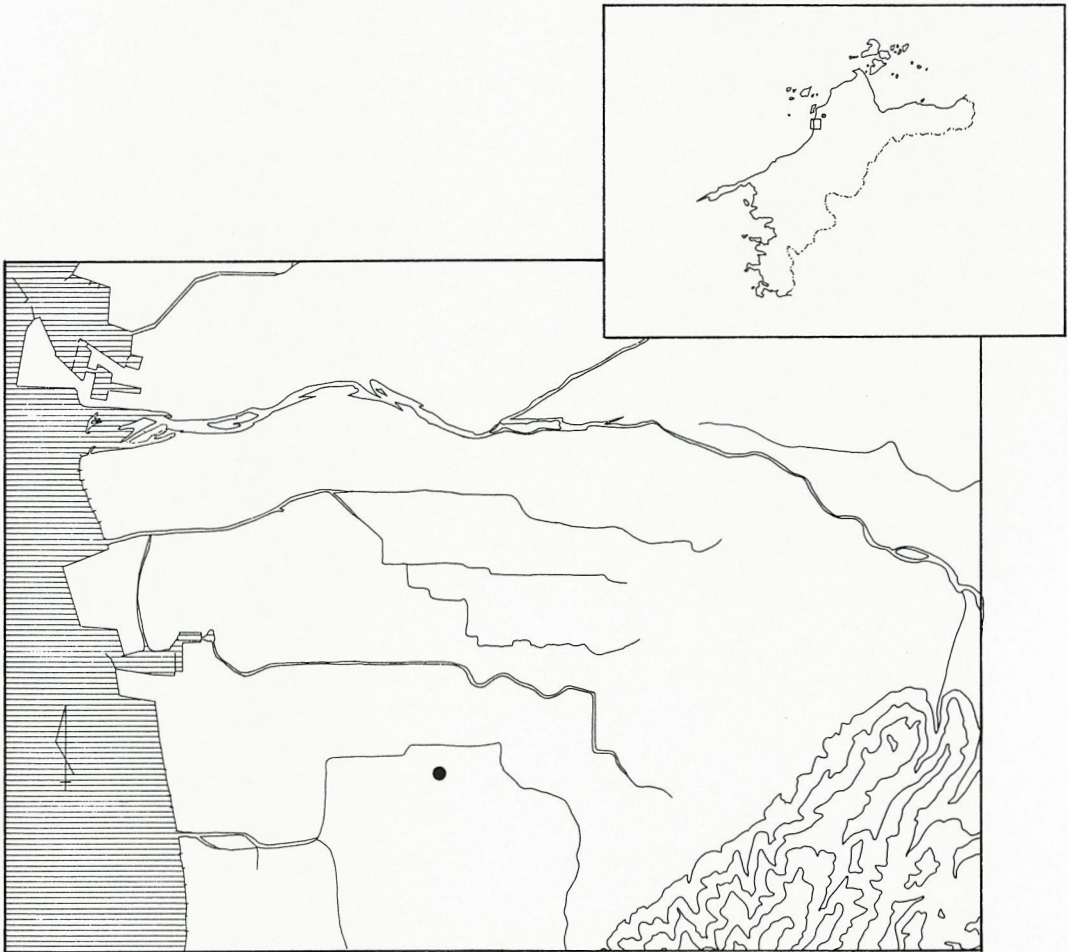
横 田 遺 跡

伊予地区カントリーエレベーター建設事業
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 4 年
(1992)

愛媛県伊予郡松前町教育委員会

横田遺跡



愛媛県伊予郡松前町教育委員会



遠景（谷上山展望台より）



発掘後の伊予地区カントリーエレベーター

巻頭図版

序 文

この報告書は、伊予郡松前町における、伊予地区カントリーエレベーター建設事業に係る、当該地域内に所在する埋蔵文化財の緊急発掘調査を松前町教育委員会が実施した発掘報告書であります。

調査にあたり、関係機関や地元の方々の多大なご協力をいただいたことに対して、ここに厚く御礼申し上げますとともに、調査関係各位の御労苦に感謝申し上げます。次第であります。

本報告書は、皆様の御期待に十分添い得ない面もあるかと存じますが、古代文化の解明の一助に、御活用いただければ幸いです。併せて、今後の埋蔵文化財の保存保護について、一層のご協力をお願いします。

平成4年10月

松前町教育委員会
教育長 満田泰三

例 言

1. 本報告書は、伊予郡松前町教育委員会が平成3年5月～7月に実施した伊予地区カントリーエレベーター建設に伴う事前発掘調査の報告書である。

2. 出土遺物の整理を、平成3年10月～11月に、報告書の作成は、平成4年6月に行った。

3. 発掘調査は下記の調査員が担当した。

調査指導 長 井 数 秋 (県立伊予農業高等学校教諭、日本考古学協会員)

調査担当 杉 木 一 正 (愛媛考古学協会委員)

4. 遺構の測量は、杉木一正、西尾政俊、三好保が行い、全作業員の協力を得た。

5. 遺物の実測・製図、撮影、遺構の製図は、杉木一正が行った。

6. 本書に使用した方位はすべて磁北である。

7. 本書にかかわる遺物、記録類は、松前町教育委員会で収蔵保管している。

8. 本書の執筆は杉木一正が行った。

9. 発掘調査に当たっては下記の方々の参加、協力を得た。

西尾 政俊 三好 保 片山伊豆子 日野スミ子 高橋 ますみ

高橋 照子 篠崎 繁一 十時 勝弘 松田美紀子 宇都宮由紀江

喜安 浩子 大西多美子

10. 発掘調査に係わる組織は下記の通りである。

団 長 松前町教育委員会教育長 満 田 泰 三

副団長 松前町文化財保護審議会会長 仙 波 文 治

団 員 松前町教育委員会社会教育課長 仙 波 勲

松前町教育委員会社会教育係長 井 上 妙一朗

松前町教育委員会社会教育主事 大 政 哲 志

事 務 松前町教育委員会社会教育係 戒 田 光 雄

本文目次

I. 調査に至る経緯と経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法と経過	6
II. 遺跡の位置と環境	12
1 遺跡の位置	12
2 遺跡周辺の地形	12
3 歴史的環境	12
III. 調査の概要	18
1 第1区域	18
(1) 層序	18
(2) 遺構	21
(3) 遺物	23
2 第2区域	23
(1) 層序	23
(2) 遺物	27
3 第3区域	31
(1) 層序	31
(2) 遺構	35
(3) 遺物	37
4 第4区域	44
(1) 層序	44
(2) 遺構	47
(3) 遺物	47
5 追試掘	57
遺物	58
IV. まとめ	64

挿 図 目 次

第1図	試掘トレンチ位置図	2
第2図	試掘調査時出土遺物(1)	3
第3図	試掘調査時出土遺物(2)	4
第4図	開発区域全体図	5
第5図	区割りとグリッド設定位置図	7
第6図	周辺の地形と水系図	13
第7図	周辺の遺跡分布図	15
第8図	第1区域南壁土層図	19
第9図	第1区域西壁土層図	20
第10図	第1区域1号土坑・1、2号溝・ピット平・断面図	22
第11図	第1区域2、3号土坑平・断面図	22
第12図	第1区域出土遺物	23
第13図	第2区域南壁土層図	25
第14図	第2区域東壁土層図	26
第15図	第2区域出土遺物(1)	29
第16図	第2区域出土遺物(2)	30
第17図	第3区域南壁土層図	32
第18図	第3区域東壁土層図	33
第19図	第3区域3号溝(西半)遺物位置図(1)	34
第20図	第3区域3号溝(東半)遺物位置図(2)	35
第21図	第3区域3号溝平・断面図	36
第22図	第3区域出土遺物(1)	39
第23図	第3区域出土遺物(2)	40
第24図	第3区域出土遺物(3)	40
第25図	第3区域出土遺物(4)	41
第26図	第3区域出土遺物(5)	42
第27図	第3区域出土遺物(6)	43
第28図	第4区域南壁土層図	45
第29図	第4区域東壁土層図	46
第30図	第4区域3号溝平・断面図	48

第31図	第4区域3号溝・遺物位置図	50
第32図	第4区域出土遺物(1)	51
第33図	第4区域出土遺物(2)	52
第34図	第4区域出土遺物(3)	53
第35図	遺構及び出土遺物位置図	55
第36図	追試掘トレンチ位置図	57
第37図	追試掘出土遺物(1)	60
第38図	追試掘出土遺物(2)	61
第39図	追試掘出土遺物(3)	62
第40図	追試掘出土遺物(4)	63

図 版 目 次

巻頭図版	1 遠景（谷上山展望台より）
	2 発掘後の伊予地区カントリーエレベーター
図版1.	1 発掘前の風景
	2 地鎮祭
図版2.	1 第1区域表土剥ぎ
	2 第1区域発掘
図版3.	1 第1区域南壁面
	2 第1区域西壁面
図版4.	1 第1区域2号溝
	2 第1区域1号土坑
図版5.	1 第1区域2号土坑
	2 第1区域3号土坑
図版6.	1 第2区域表土剥ぎ
	2 第2区域の安定層の高まり
図版7.	1 第2区域南壁面
	2 第2区域東壁面
図版8.	1 第2区域（C-7区）遺物出土状況
	2 第2区域遺物出土状況
図版9.	1 第3区域表土剥ぎ

- 2 第3区域南壁面
- 図版10. 1 第3区域東壁面
2 第3区域東壁面3号溝断面
- 図版11. 1 第3区域3号溝発掘風景
2 第3区域3号溝遺物出土風景
- 図版12. 1 第3区域3号溝を東南より西北を望む
2 第3区域3号溝を西北より東南を望む
- 図版13. 1 第4区域表土剥ぎ
2 第4区域南壁面
- 図版14. 1 第4区域東壁面
2 第4区域須恵器64、60出土状況
- 図版15. 1 第4区域3号溝を北西から南東へ望む
2 第4区域3号溝を南東から北西へ望む
- 図版16. 1 第4区域3号溝(F-17区)65出土状況
2 第4区域3号溝遺物出土状況
- 図版17. 1 全景北半(東より西を望む)
2 全景南半(東より西を望む)
- 図版18. 出土遺物(1)
- 図版19. 出土遺物(2)
- 図版20. 出土遺物(3)
- 図版21. 出土遺物(4)
- 図版22. 追試掘時出土遺物
- 番外 発掘参加者の記念撮影

I 調査に至る経緯と経過

1. 調査に至る経緯

南伊予農業協同組合より松前町教育委員会に対し、開発（伊予地区カントリーエレベーター建設）を予定している範囲に遺存する埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を依頼して来た。松前町教育委員会は相田則美に依頼し埋蔵文化財確認調査を行った。

平成3年3月22日・23日に行った調査結果は以下である。

開発予定範囲を考慮して3本の長いトレンチ調査を実施した。3本のトレンチにおいて良好な遺物包含層、遺構が検出されている。したがって、開発予定範囲は全面に集落関係遺構が遺存する。

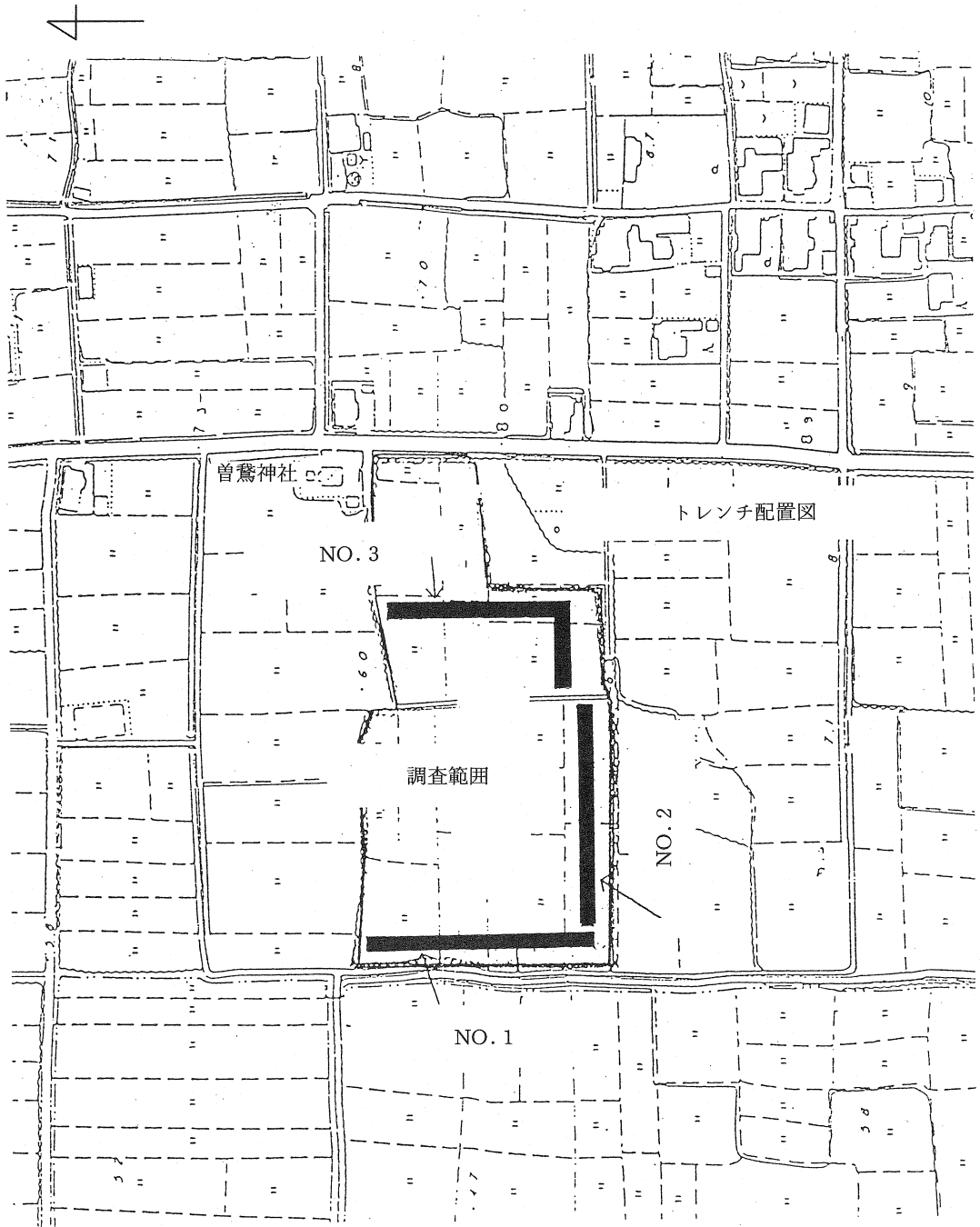
中でも、No.3トレンチにおいての弥生前半の遺構（溝）と遺物の出土は、松山南部の弥生時代の開始を解明するうえで重要である。

なお、今回の試掘調査のなかで注意された条里遺構については、短期間でしかも雨天決行のため明確な検出はできていない。床土直下で検出されている溝あるいは掘り込みが条里遺構の一部を構成する可能性はあるが断定はできない。

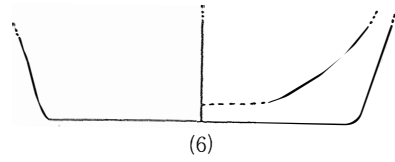
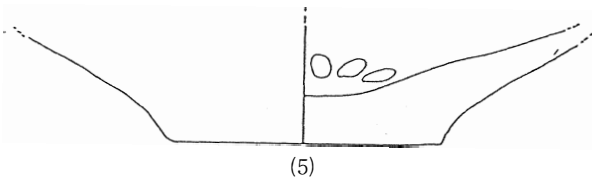
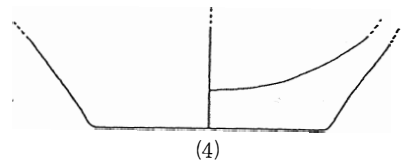
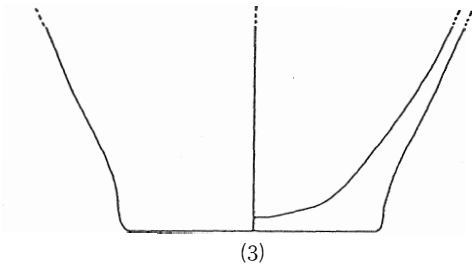
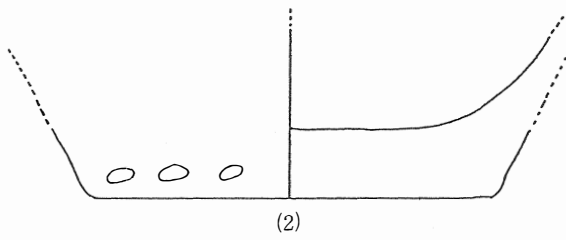
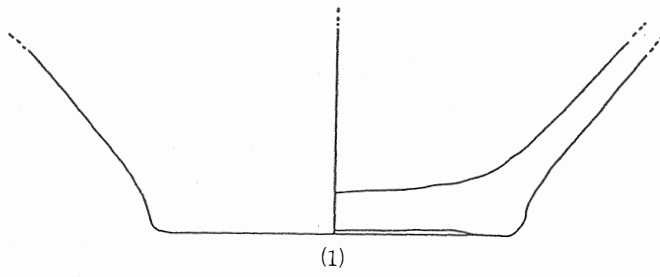
試掘時出土遺物（第2、3図）

以下は試掘調査のとき出土した遺物（底部、口縁部）の観察所見である。

- (1) 底部。底部直径11cm。灰白色。1～3mmの砂粒多く含む。表面剝離。少々上げ底。
- (2) 底部。底部推定直径12cm。外面灰白色。内面淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。底部外面に指による圧痕と思われる凹部有り。外面ナデ仕上げ。平底。
- (3) 底部。底部直径7.4cm。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。内面ナデ仕上げ。外面剝離。平底。
- (4) 底部。底部直径7cm。灰白色。1～2mmの砂粒多く含む。風化激しい。
- (5) 底部。底部推定直径8cm。内面灰白色。中心胎土黒褐色土。外面灰褐色。1～3mmの砂粒多く含む。内面底部に指によると思われる圧痕有り。表面剝離。平底。
- (6) 底部。底部推定直径9cm。淡赤色。1～3mmの砂粒を多く含む。胎土中に茶褐色の土器片の一部と思われる物が混入している。表面剝離。平底。
- (7) 胴部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。（小片のため器形復元は想像にすぎず）

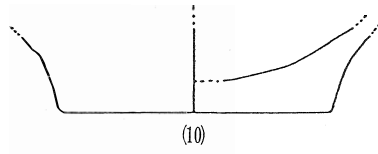
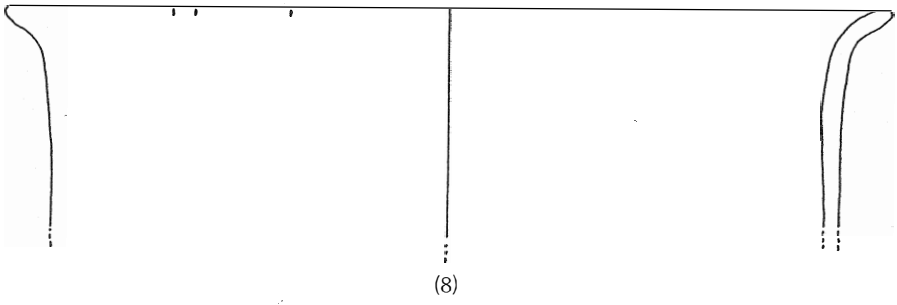
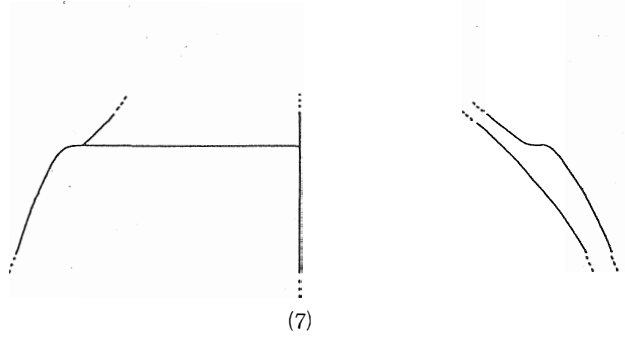


第1図 試掘トレンチ位置図



0 5 cm

第 2 図 試掘調査時出土遺物(1)



第3図 試掘調査時出土遺物(2)

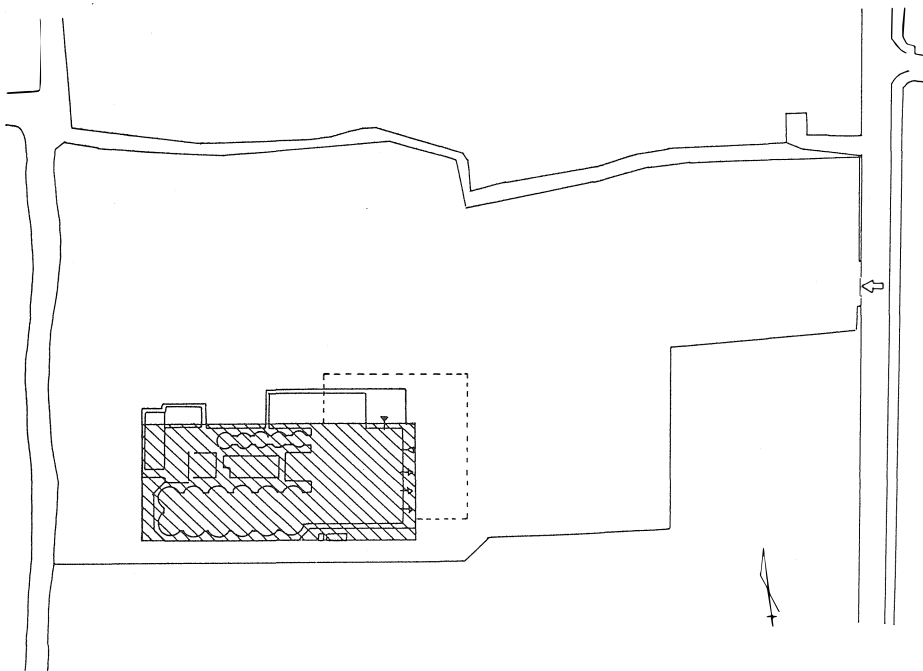
- (8) 口縁部。口縁部推定直径26cm。灰褐色。1～3mmの砂粒を含む。不明瞭ながら口唇部に刻目有り。表面剝離。
- (9) 口縁部の一部。灰白色。頸部外面横ナデ仕上げ。
- (10) 底部。底部推定直径8cm。黄白色。1～2mmの砂粒を含む。風化激しい。小片。

以上の確認調査報告を受け、松前町教育委員会は、伊予地区カントリーエレベーター設置協議会と協議の結果、発掘調査が計画された。直ちに調査組織を作り、発掘計画の協議に入った。

建造物建設予定地以外は、底湿地のため盛り土工法にて駐車場、広場等が作られるため発掘調査の必要は無いと判断した。

今回の発掘調査は、建造物建設予定地の約2,000㎡と、決定された。

松前町教育委員会と調査員による数度の話し合いの結果、発掘調査を平成3年5月22日から実施することに決定した。



第4図 開発区域全体図

2. 調査の方法と経過

当初の発掘区域は南北29m、東西70mであった。これを東西に3分割し、それぞれを西より第1区域、第2区域、第3区域とし発掘を開始したが、第3区域の東端より溝が出土したため、東へ500m²（南北30m、東西17m）発掘区域を延長し調査、これを第4区域とした。

試掘調査で遺物包含層、及び遺構が床土と地山との間に遺存していることが確認されているので、これを受けて耕作土・床土をバックホーにて除去し、手堀にて遺物包含層を発掘する事にした。

磁北に沿い5m×5mのグリットを設定し、西より東へ数字を、南から北へアルファベットを付し、それぞれのグリットに呼称を付した。

発掘は第1区域より漸次、第4区域へと進めた。

5月21日(火) 曇り

発掘の安全を願い、神事を行う。

5月22日(水) 曇り

全体を3分割し、西から第1区域、第2区域、第3区域とした。第1区域の表土をバックホーにて除去。

5月23日(木) 曇り

第1区域北半分の表土をバックホーにて除去。発掘の準備作業を行う。

5月24日(金) 曇り

第1区域の発掘に取り掛かる。東端の黒褐色土を掘る。

5月25日(土) 晴れ

南半分を清掃。西壁、南壁の削り出しを行う。

5月27日(月) 曇り

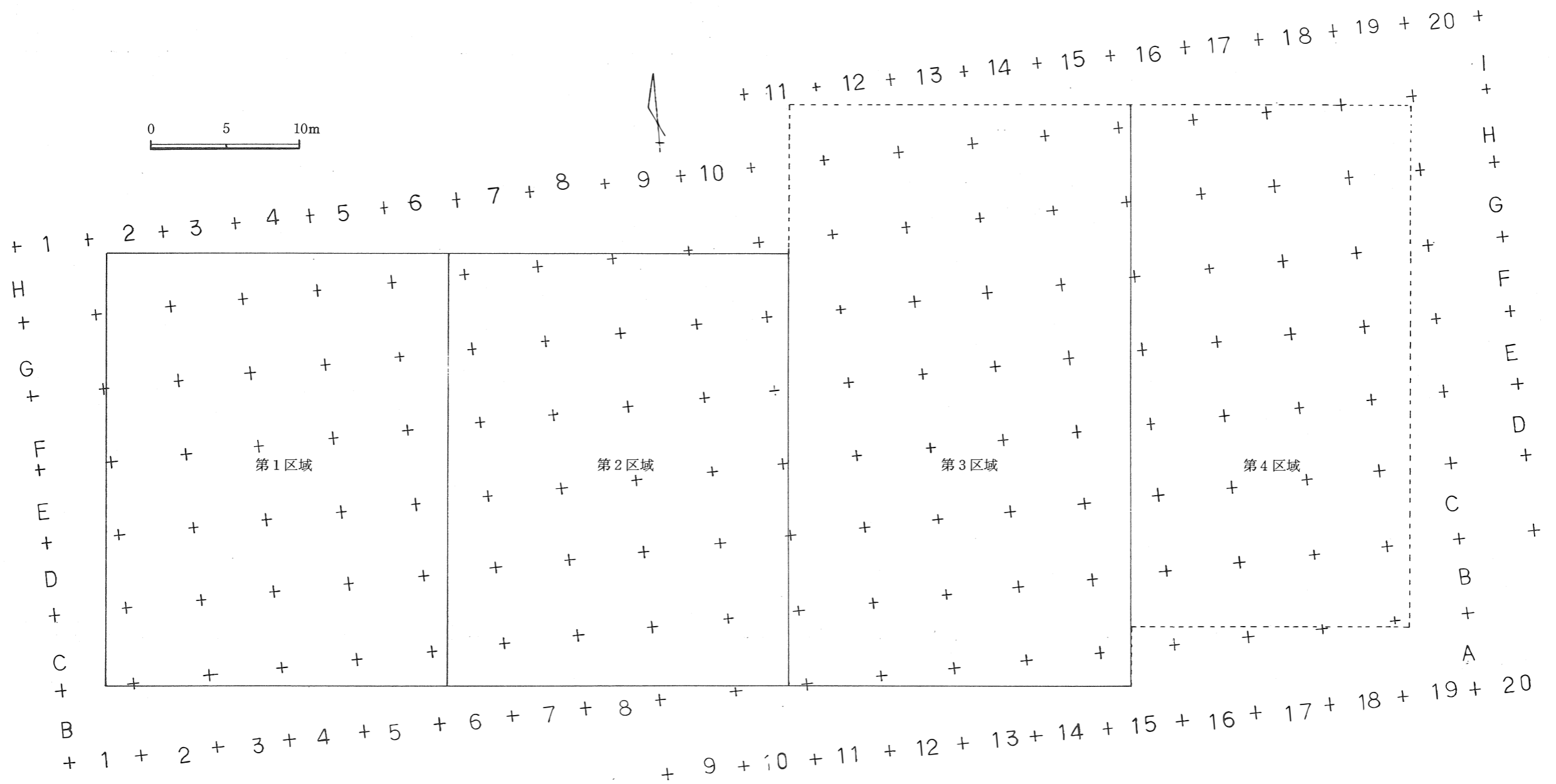
北半分を第2～3層まで掘り下げる。大谷川北岸の水準点よりレベルを引いてくる。

5月28日(火) 晴れ

北側黒褐色土層上面を清掃。5m×5mのグリット杭を打つ。それぞれのグリットに西から東へ、1、2、3、……、南から北へA、B、C……と呼称を付す。西壁、東壁の層出しを行う。

5月29日(水) 曇り

西壁、東壁の地層断面を測量。黒褐色土を掘り下げる。



第5図 区割りとグリッド設定位置図

5月30日(木)曇り

中央の、東西に出土した溝を掘り出す。南半分を清掃。

6月1日(土)曇り

溜まった水を排水。北端部の黒褐色土を掘り下げる。

6月4日(火)曇り

溜まった水を排水。杭に番号を書き込む。

6月5日(水)曇り

溜まった水を排水。全体の表面剝ぎを行う。写真撮影。

6月6日(木)曇り

溜まった水を排水。全体の測量。

6月7日(金)晴れ

測量。

6月8日(土)晴れ

西壁北半分を掘り出し、測量。第1区域の発掘を終える。

6月11日(火)晴れ

第2区域の発掘にかかる。表土をバックホーにて除去。

6月12日(水)曇り

昨日に続いて、表土をバックホーにて除去。

6月13日(木)小雨

南北に巾50cmのトレンチを黒褐色土に設定し発掘。

6月14日(金)晴れ

溜まった水を排水。トレンチを発掘。摩滅した小片遺物多数出土。器形を伺える物無し。

6月15日(土)小雨

杭打ちを行う。西南端より安定層まで発掘。

6月18日(火)晴れ

溜まった水を排水。杭打ちと一部発掘す。

6月21日(金)曇り

溜まった水を排水。遺物が出土したC-7、D-7を発掘。東壁を削り出し
測量。

6月22日(土)曇り

E-7、D-7を安定層まで掘り下げた。

6月25日(火) 小雨

B-10、C-10、C-7を発掘。雨と湧き水のため発掘進まず。

6月26日(水) 晴れ

D-8、B-10、C-7を発掘。

6月27日(木) 晴れ

D-7、E-7、B-7、C-7を測量。

6月28日(金) 小雨

第2区域全体を清掃。撮影。第1区域全体を清掃。撮影。

6月29日(土) 小雨

第2区域北半分のレベルを測量。雨のため他は中止。

7月2日(火) 小雨

第3区域の発掘にかかる。表土をバックホーにて除去。

7月3日(水) 曇り

昨日に続き表土をバックホーにて除去。

7月6日(土) 曇り

溜まった水を排水。南東隅から発掘。

7月8日(月) 晴れ

南壁面を削り出し、測量。前回に続いて南東隅を掘る。掘った土は全て水洗いす。遺物無し。

7月9日(火) 晴れ

杭打ちを行う。南東隅から北へ掘り進む。

7月10日(水) 晴れ

南東隅から北へ、さらに掘り進む。

7月11日(木) 晴れ

C-15を掘るも遺物無し。G-15より黒色土出土。30cm下から遺物出土。A-15・14、B-15・14を測量。

7月12日(金) 曇り

G-15・14、H-14・13に黒褐色土による溝が出土。東壁面を削り出し測量。

7月13日(土) 晴れ

G-15の黒褐色土を発掘。

7月15日(月) 小雨

G-15より西へ8m掘り進む。

7月17日(水) 小雨

H-13・14の溝を発掘。

7月18日(木) 晴れ

溝を東壁より東へ5 m延長して掘り進む。

7月19日(金) 晴れ

G-15、H-15の東を、溝の両サイドを発掘。

7月20日(土) 晴れ

溝を地山まで、ほぼ完掘。溝(G-15・14)を測量。

7月22日(月) 晴れ

H-13・15を測量。

7月23日(火) 晴れ

溝が伸びている東側を500㎡、延長発掘することになり、表土をバックホーにて除去。ここを第4区域とする。溝の遺物を取あげ、測量。第3区域の発掘を全て完了。

7月24日(水) 晴れ

第4区域の発掘にかかる。杭打ちを行う。

7月25日(木) 晴れ

溝を発掘。

7月26日(金) 小雨

F-17、G-16を発掘。

7月27日(土) 小雨

溝をほぼ完掘。一部測量。

7月29日(月) 小雨

南壁、東壁を測量。

7月30日(火) 晴れ

F-17、E-17の溝を測量。写真撮影。

7月31日(水) 晴れ

F-16、E-16の溝断面を測量。以上で全ての発掘を完了した。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

横田遺跡の絶対位置は、北緯 $33^{\circ} 45' 26''$ 、東経 $132^{\circ} 43' 42''$ の交差点周辺である。行政位置は愛媛県伊予郡松前町大字横田405番地外15筆であり、垂直位置は標高6.40mで、西方の西瀬戸内海の伊予灘までの最短距離は2.5kmである。

遺跡の北には、天井川である大谷川が流れ、南の方4.5kmには標高455.5mの谷上山を擁する地である。

2. 遺跡周辺の地形

今回調査を行った南後方に明神山、谷上山、行道山を擁し、これらの山々から吐き出される多量の岩屑類は山麓に多くの扇状地を形成し調査区は南部山麓扇状地末端部から、重信川三角州へ至る、斬移地帯の一角に位置している。

水源地为南後方の山々にもつ、天井川である大谷川が東へ700m、北へ300m、西へ1,000mの所を東から西へ、調査区を取り囲むように流れている。

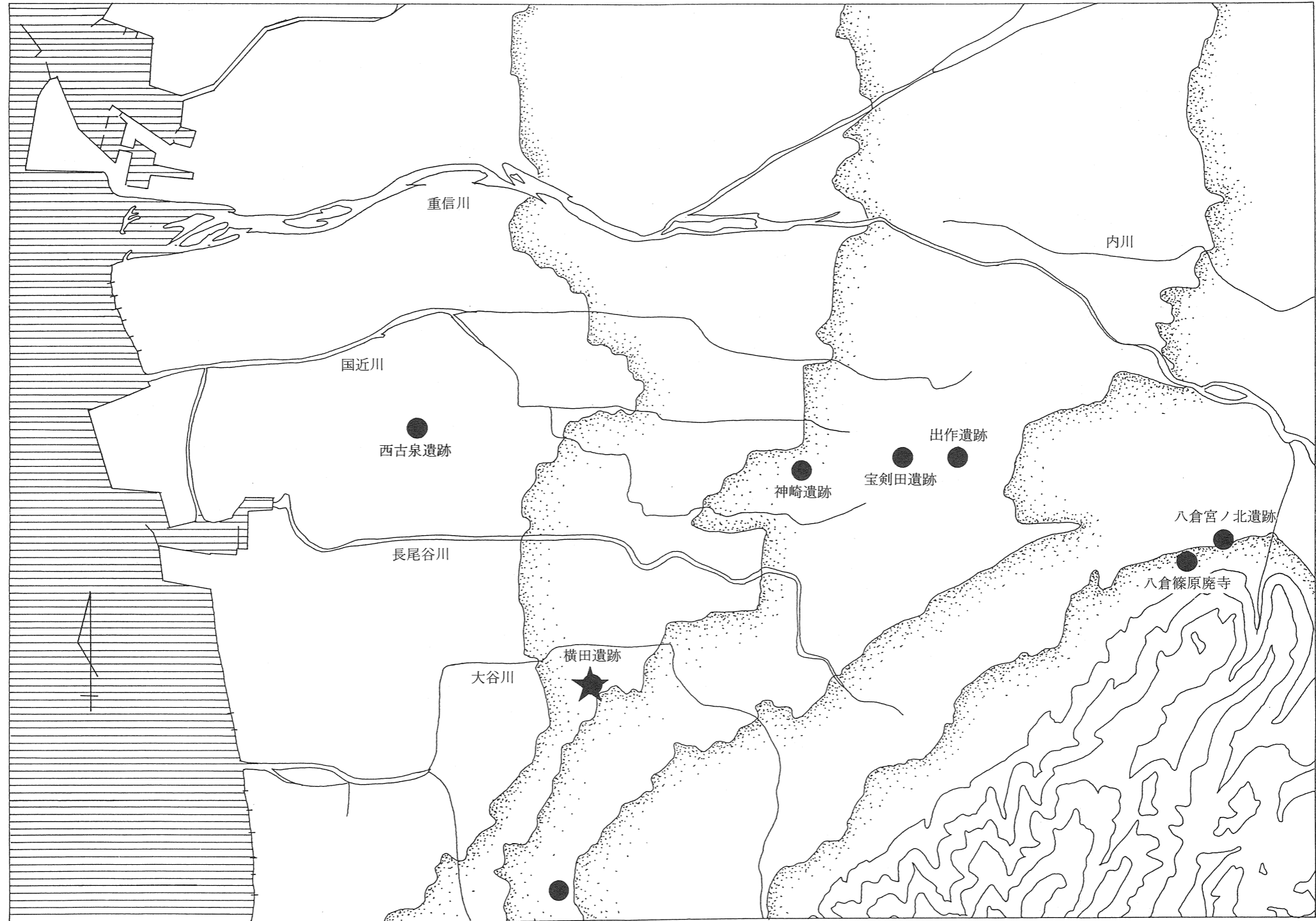
調査区周辺部においては水捌けが悪く、古くは低湿地帯を呈していたと思われる。

3. 歴史的環境

今回調査を行った周辺には、現在確認されている歴史時代以前の遺跡は東から出作遺跡、宝剣田遺跡、神崎遺跡、西古泉遺跡である。それぞれの時代について遺跡を中心にして考えてみよう。

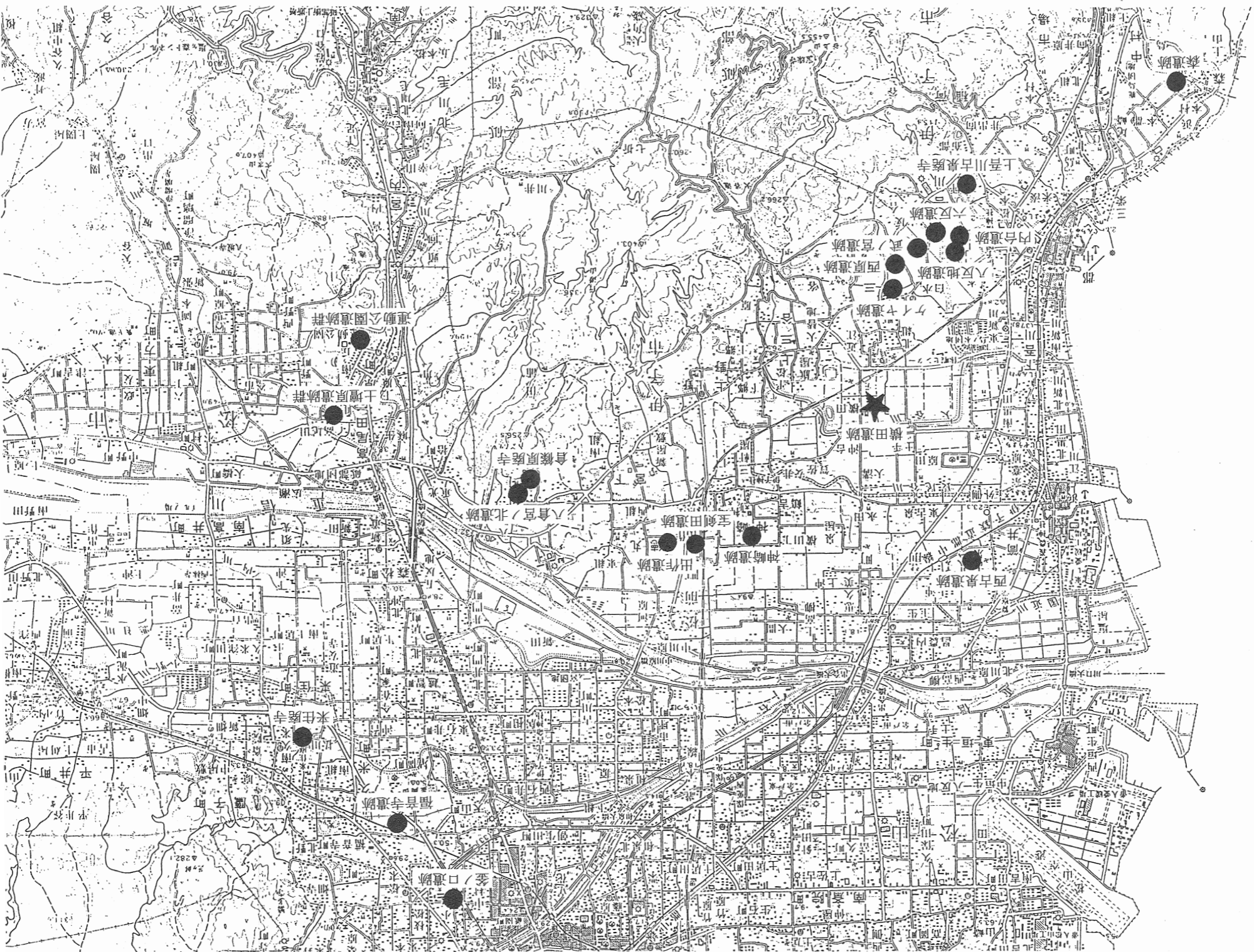
先土器時代 先土器時代及び、それ以前の時代の遺物又は遺構は今現在、確認されていない。しかし存在しないと断言はできない。調査区の南約900mの所にある伊予市上三谷の岩崎池から、まとまってナイフ型石器が発見されている。このことからして近い将来横田から徳丸にかけて先土器時代の遺跡が発見される可能性は大いにあると思われる。

縄文時代 遺構に伴う遺跡は未だ確認されていないが、僅かながら遺物は発見されている。1981年8月に神崎地区において縄文土器、弥生土器数点と姫島産黒曜石の石鏃一個を表面採集されたと報告されている。今回の調査区近くからも縄文晩期の土器と思われる小片が出土している。少なくとも縄文晩期において人々の生活が営まれていたことは間違い



0 0.5 1 km

第6図 周辺の地形と水系図



第7図 周辺の遺跡分布図

ないであろう。

弥生時代 前期から中期にかけての遺跡は西古泉遺跡と宝剣田遺跡である。西古泉遺跡は1983年2月、水路工事中に地表（地目、水田）から1 m下より砂交じりの黒褐色土の層が出土し、その層中より前期末から後期にかけての土器と石器が出土している。遺跡の地表面の標高は3 m前後と思われるので遺物包含層は標高2 m前後となる。このすぐ西に海岸線に沿って南北に砂丘列があり弥生時代においては内陸部から河川により、もたらされる大量の水により低湿地帯が広く形成されていたものと考えられる。

宝剣田遺跡においては支石墓と思われる岩の下から前期の有柄磨製石剣が出土している。遺構については発掘調査されたものではないので詳細は不明。いずれ何らかの調査により明らかになるであろう。

古墳時代 出作遺跡は1977年に農業基盤整備事業中発見され、12月に発掘。中期の大規模な祭祀遺跡である。遺構は70mに及ぶ溝と竪穴住居跡と焚火跡が出土している。遺物は土師器、須恵器、石製模造品、鉄製品等が出土。強大な富と権力を持った豪族がこの時代、この地に存在していたことを示す最も重要な遺跡である。

当地は原初の時代から道後平野の海に開かれた表玄関として大いに栄えた地である。

参考文献

松前町役場「松前町誌」

愛媛県「愛媛県史」－原始・古代I－

松前町郷土を語る会「松前史談」第2号

III. 調査の概要

1. 第1区域

(1) 層 序

南壁土層 (第8図)

第1区域の南端に位置する東西23mの土層である。東西の比高差は表土ではほとんど無く、安定層においては20cmである。基本的層序は表土層、黄褐色土層、灰白色土層、黒褐色土層の4層である。

第1層 表土 (耕作土) 層

現在の水田層である。ほぼ15~20cmの厚さで平行に堆積している。

第2層 黄灰色土 (水田の床土) 層

水田の保水のために作られた5cm前後の水平な層である。東西南北に作られている暗渠は、この層を上限にして掘り込まれている。現在も立派にこれら暗渠は機能している。

第3層 灰白色土層

この層は10~30cmの厚さでほぼ水平に堆積している。砂を含まない層と含む層の2層に別れている。上層が砂を含まない層、下層は砂を含む層である。それぞれ5~15cmの厚さである。

第4層 黒褐色土層

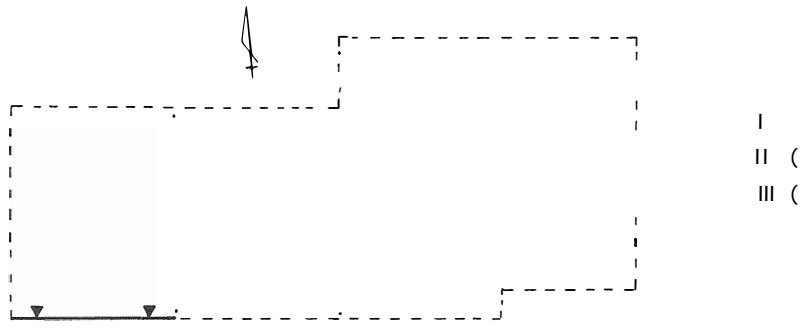
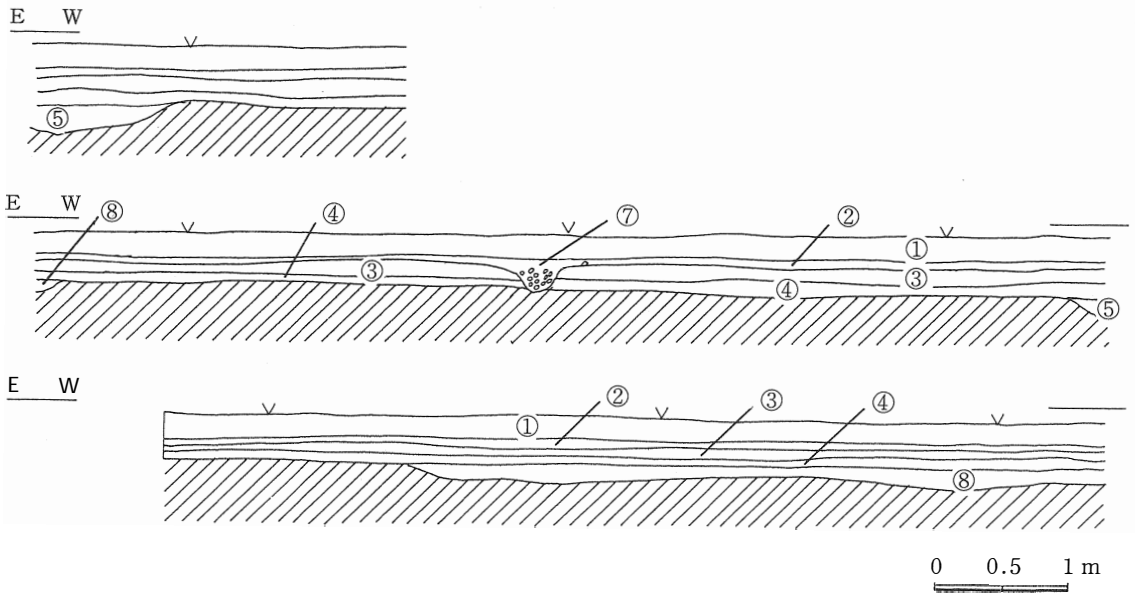
遺構及び遺物を伴う層である。西端から東へ16mの所から21m迄の5mにわたって安定層を削るようにして北方向に伸びている。この先端である10m先で摩滅した多くの土器の小片が出土している。この層は湿地帯を形成していたものと思われる。

西壁土層 (第9図)

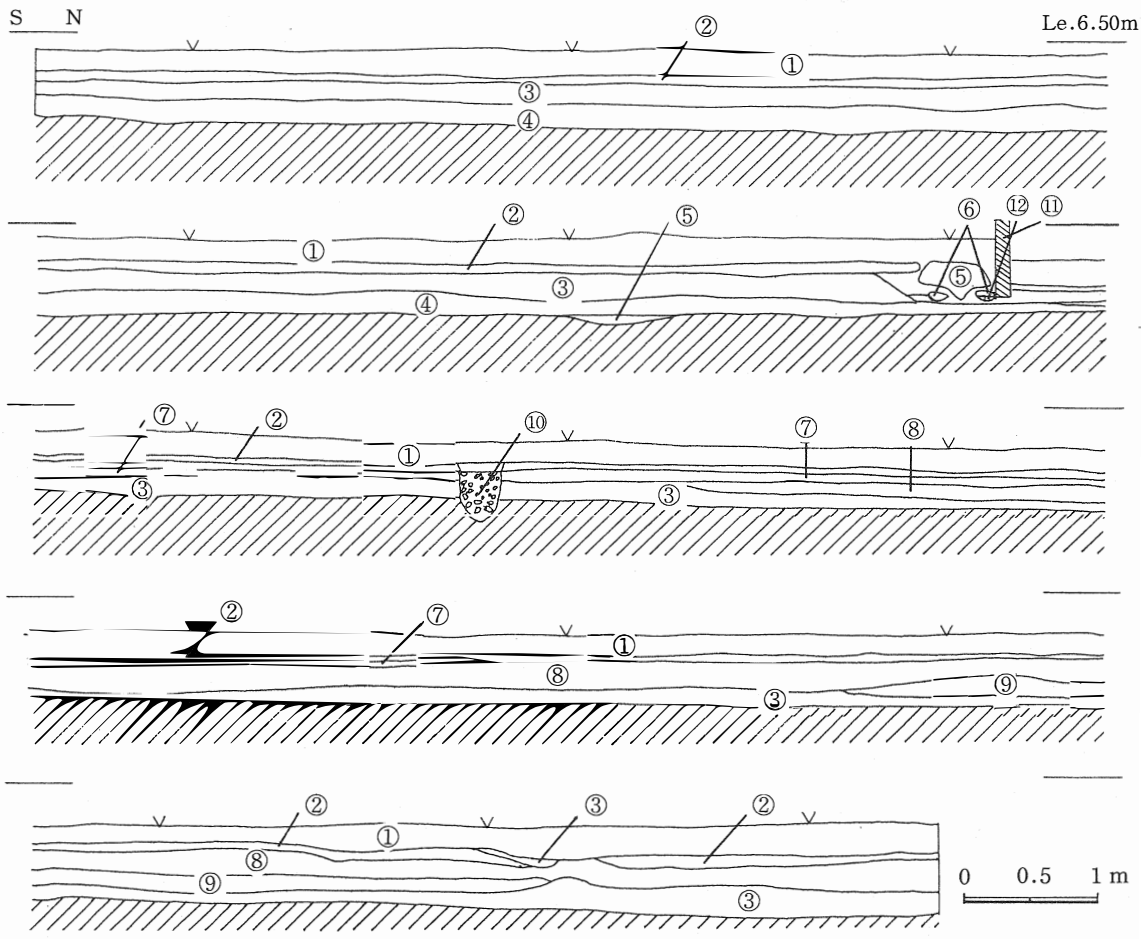
第1区域の西端に位置する南北39mの土層である。基本的層序は表土層、黄灰色土層、灰白色土層の3層である。南北の比高差は地表面で23cmで、安定層では40cmである。遺構は安定層を切り込むようして存在する。

第1層 表土 (耕作土) 層

現在の水田層である。ほぼ15~20cmの厚さで水平に堆積している。西端から15mの所で段差15cmで二枚の水田に別れている。



第8图 第1区域南壁土层图



- | | |
|-----------------|-----------|
| ①耕作土 | ⑦灰褐色土 I |
| ②黄灰色土 (床土) | ⑧灰褐色土 II |
| ③灰白色土 I | ⑨灰褐色土 III |
| ④灰白色土 II (砂を含む) | ⑩暗渠 |
| ⑤褐色土 | ⑪コンクリート壁 |
| ⑥青白色粘質土 | ⑫木片 |

第9図 第1区域西壁土層図

第2層 黄灰色土層

人工的に作られた現在の水田の床土である。5～10cmの厚さでほぼ水平に堆積した層で保水に適した粘質土である。

第3層 灰白色土層

西端から16mがこの層で、厚さ35cm前後でほぼ水平に堆積している。砂を含まない層と、含む層の2層に別れる。砂を含む方が下層である。これより北では灰褐色土と入れ替わる。この違いは土の含水量の違いではないだろうか。

(2) 遺 構 (第10、11図)

遺構は安定層である淡黄色土を切り込むようにして存在する。

1号土坑

F-3区に位置し、外径1.3～1.5m、深さ14cmの遺構で出土遺物は須恵器と思われる小片が一個。彫り込み面は明瞭で人の手による物と思われる。

2号土坑

C-2区に位置し、外径1.9～1.7mのやや方形を呈し、深さ13cmで底は緩やかな、掘り鉢形である。出土遺物は無く彫り込み面も、やや不鮮明である。

3号土坑

B-3区に位置し、遺構内は安定層である淡黄色土の混入する土で満たされていた。この土坑の大部分は調査区域外の南に広がるものと思われ、ほとんど不明。出土遺物は無し。

1号溝

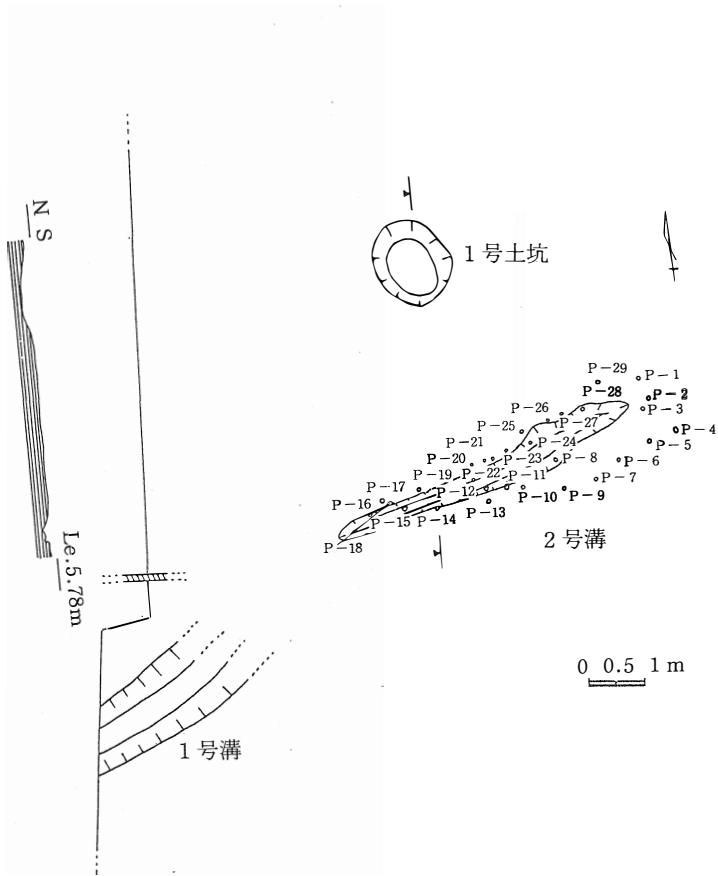
E-2区に位置し、幅1～1.3m、深さ10cmの溝である。溝方向はN60°Eである。西壁から2.5m確認されただけで大部分は調査区域外の西に伸びていると思われる。出土遺物は床面より、2点の小さな土器片が出土している。溝を埋めていた土は黒褐色土であった。

2号溝

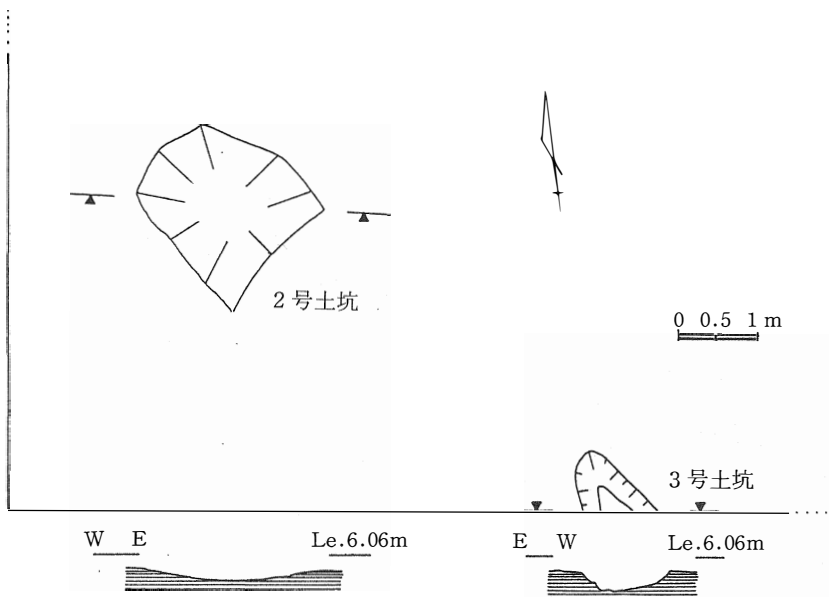
F-3区に位置し、幅は30～80cm、深さは13cm。断面の形状はV字形である。出土遺物は2点で、その内の1点は底部。摩滅した小片である。溝の方向が1号溝とほぼ同じなので、何らかの関連があるものと思われる。

ピット群

2号溝を取り囲むように存在し、直径7cm前後、深さは1～13cmで、まちまちである。ピットの総数は29個。杭の跡ではないかと思われる。



第10図 第1区域1号土坑・1、2号溝・ピット平・断面図

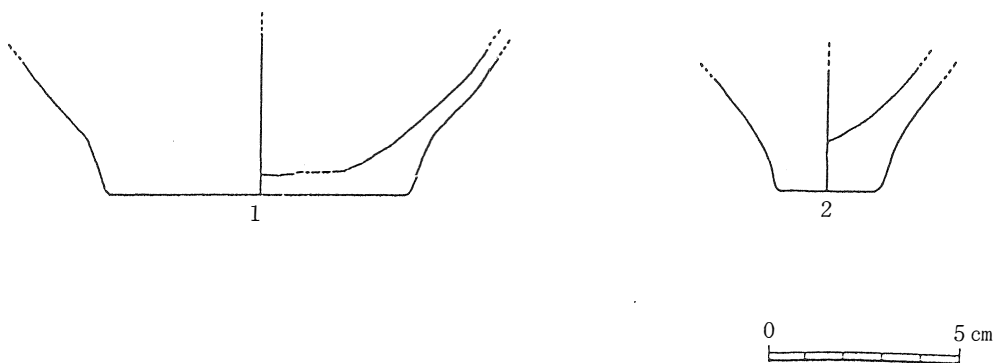


第11図 第1区域2、3号土坑平・断面図

(3) 遺物 (第12図)

ほとんどの遺物が摩滅した小片で全体の形が伺える物はない。以下は第1区域から出土した遺物の中から口縁部、頸部、底部の形状が伺えるものを選んで実測した遺物の観察所見を述べたものである。

- 1 F-3 出土。底部。底部推定直径8 cm。全体の色は灰白色。1~2 mmの砂粒を含む。表面剝離。平底。
- 2 D-5 出土。底部。底部推定直径2.6 cm。灰褐色で1~2 mmの砂粒を含む。表面剝離。平底。



第12図 第1区域出土遺物

2. 第2区域

(1) 層序

南壁層序 (第13図)

第2区域の南端に位置する東西23mの土層である。安定層の東西の比高差は10cmである。基本的層序は5層で上から表土(耕作土)層、黄灰色土層、灰褐色土層、灰白色土層、黒褐色土層である。

第1層 表土(耕作土)層

現在の水田層である。ほぼ15~20cmの厚さで平行に堆積している。東西の比高差は、15cmである。これは中央部で15cmの段差を持って2枚の田に別れているからである。

第2層 黄灰色土層

この層は2層に別れている。第1区域から続いていた床土の層が突然とぎれ東の上段水田から床土として始まる。2層共ほぼ5cmの厚さで平行に堆積している。

第3層 灰褐色土層

厚さ10cm前後で、ほぼ水平に堆積している。

第4層 灰白色土層

厚さ5cm前後で、ほぼ水平に堆積している。この層は人工的な物に関係するのではないかと思えてならない。今のところ、そのことを明らかにする物は無い。

第5層 黒褐色土層

最下層を形成し遺物を含む層である。西端より4mの所から、底部は安定層を削るように、上部は水平に15cmの厚さで、東の第3区域へと続いている。この層の下の安定層は礫交じりの黄色粘質土である。

東壁土層 (第14図)

第2区域の東端に位置する南北29mの土層である。基本的層序は5層である。南北の比高差は、地表で30cm、安定層で10cmである。

第1層 表土 (耕作土) 層

現在の水田で、ほぼ15cm前後の厚さで水平に堆積し、南端から15mの所で30cmの段差をもつて2枚の田になっている。

第2層 黄灰色土 (床土) 層

厚さ5cmで、ほぼ水平に堆積している。粘質土である。灰色を増し砂を含んだもの(II)と、そうでない物(I)の2種類に別れている。

第3層 灰白色土層

5~15cmの厚さで堆積している。この層も砂を含んだ層(II)と、そうでない(I)とに別れている。(II)は溝状の凹部に堆積し何らかの水の作用を受けたものと思われる。遺物や礫は存在しなかった。

第4層 灰褐色土層

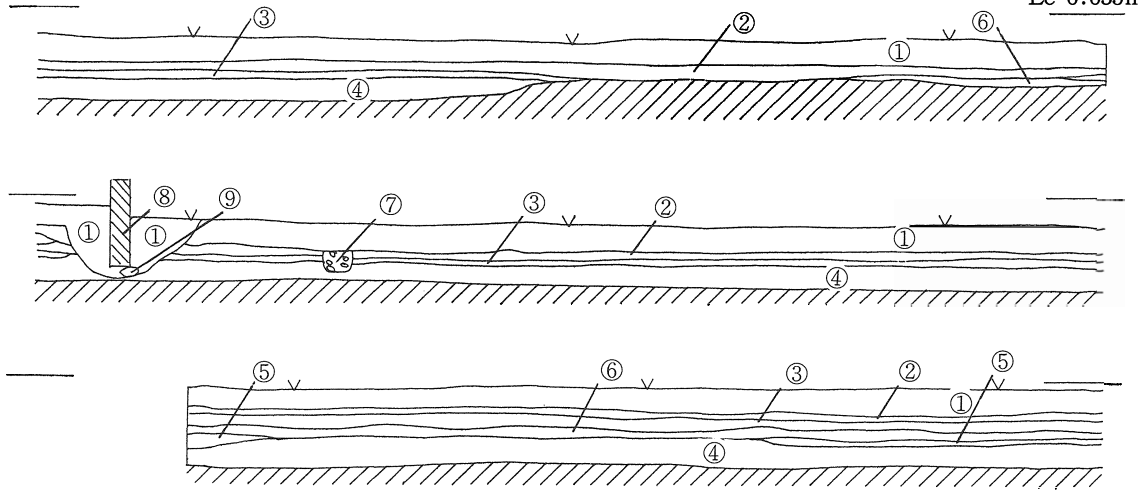
10~15cmの厚さで堆積し上部に溝状の凹部を形成している。

第5層 黒褐色土層

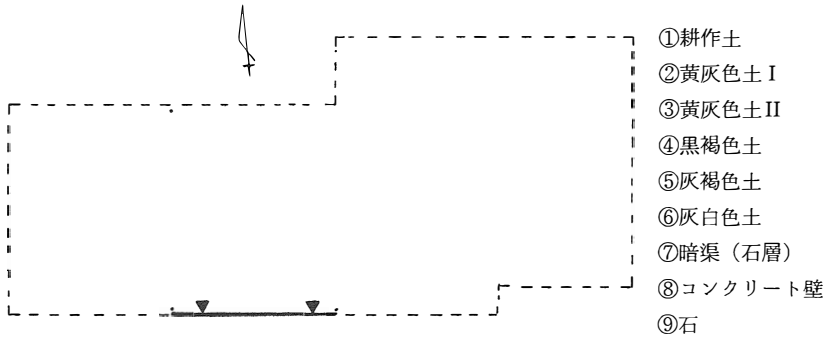
10~15cmの厚さで、ほぼ水平に安定層の上部に位置する。摩滅した小片ではあるが多くの遺物を含む層である。

E W

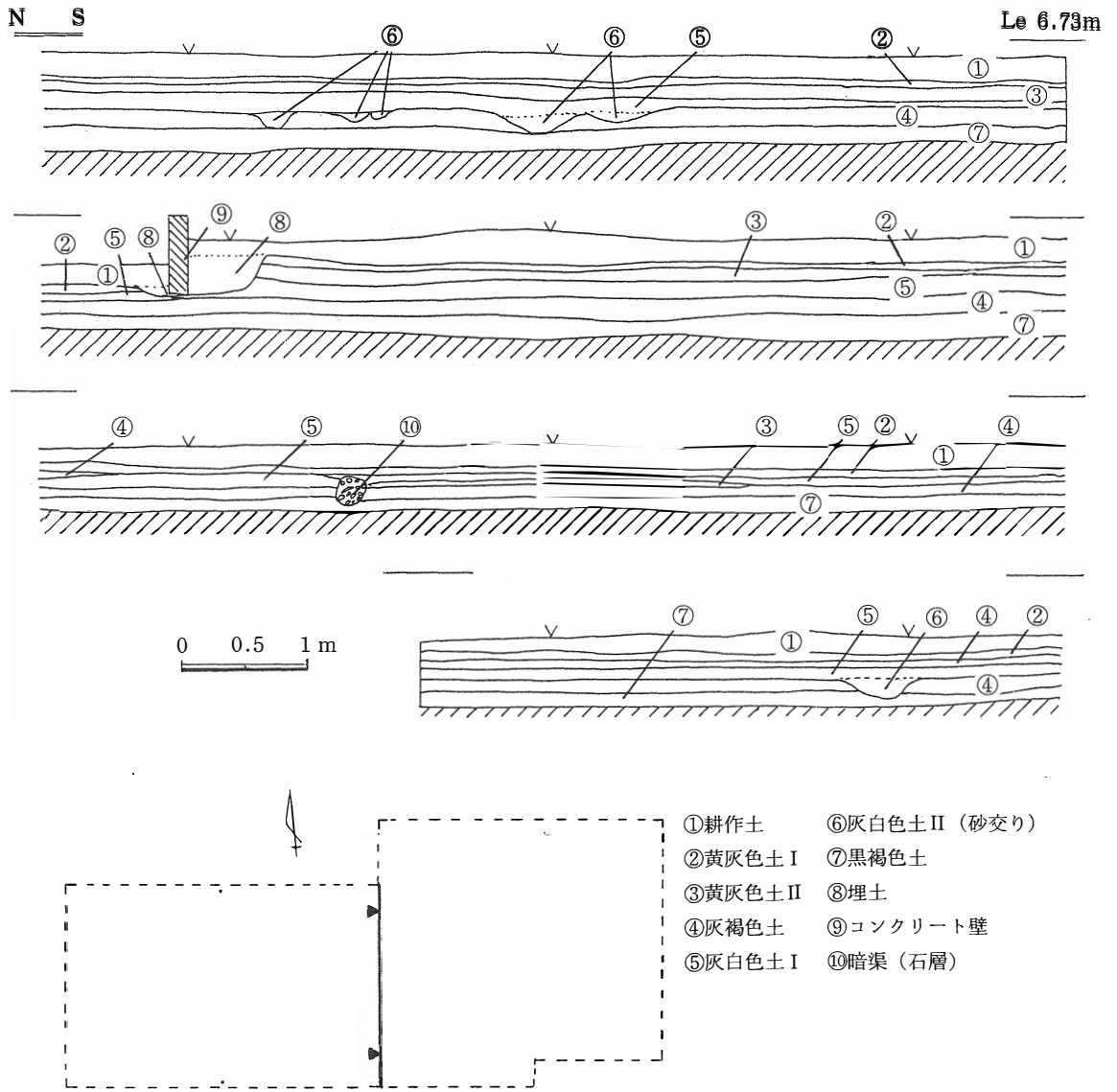
Le 6.635m



0 0.5 1 m



第13図 第2区域南壁土層



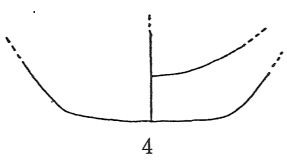
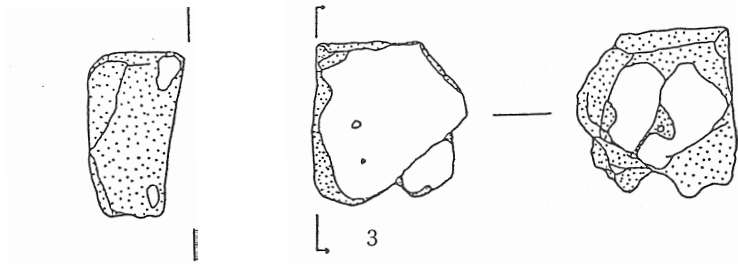
第14図 第2区域東壁土層図

(2) 遺物 (第15、16図)

第2区域出土遺物は砥石片以外は全て摩滅した土器の小片である。口縁部と底部の破片を集め復元可能なものを実測した。遺物24は調査区外のI-10区から出土した須恵器である。床土(黄褐色土I)のすぐ下から出土。全て遺構に伴わないものである。以下は実測遺物の観察所見である。

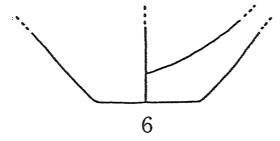
- 3 C-6 出土。砥石片。白黄色。砂岩で陶石の様である。脆く、触るとポロポロ砂粒が落ちる。黒褐色土中より土器片と共に出土。
- 4 C-7 出土。底部。底部推定直径5.4cm。灰白色、一部黒色。1~3mmの砂粒を含む。風化、摩滅激しい。
- 5 D-7 出土。底部。底部推定直径3cm。黄白色。全体に脆い。黒色土層の上部より出土。
- 6 D-7 出土。底部。底部推定直径3cm。外面及び胎土は茶褐色。内面黄白色。1~2mmの砂粒を含む。表面剝離。小片。
- 7 D-7 出土。底部。底部推定直径4cm。中心胎土灰褐色。外面灰白色。ほんの少し上げ底ぎみ。1~3mmの砂粒を含む。摩滅激しい。
- 8 C-7 出土。底部。底部推定直径3cm。内面黄白色。外面は灰褐色。1~2mmの砂粒を含む。表面剝離。少し上げ底。
- 9 C-7 出土。底部。底部推定直径3cm。内面淡赤色。内面は灰白色。1~4mmの砂粒を含む。摩滅激しい。
- 10 C-7 出土。底部。底部推定直径2.6cm。底部外面は淡赤色。内面他は灰白色。1~2mmの砂粒を含む。少し上げ底気味。表面剝離。摩滅激しい。
- 11 C-7 出土。底部。底部推定直径4cm。外面灰白色。内面と底部の一部は淡赤色。表面剝離。1~2mmの砂粒多し。上げ底。
- 12 C-7 出土。底部。底部推定直径4cm。灰褐色。1~2mmの砂粒を含む。表面剝離。内面淡赤色。平底。
- 13 C-7 出土。底部。底部推定直径5cm。灰褐色。底部外面淡赤色。1~2mmの砂粒を含む。表面剝離。摩滅激しい。平底。
- 14 C-7 出土。底部。底部推定直径1.8cm。灰褐色。底部淡赤色。1~2mmの砂粒を含む。表面剝離。小片。
- 15 C-8 出土。底部。底部推定直径6cm。胎土は黒褐色で表面は淡黄色。1~3mmの砂粒を含む。表面剝離。摩滅激しい。(全てにおいて砂粒がむき出しになっている。)
- 16 C-7 出土。底部。底部推定直径3cm。胎土は灰褐色、内面と外面の一部は淡赤色。

- 1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。小片。平底。
- 17 C-7出土。底部。底部推定直径6cm。淡赤色で一部灰褐色。1～5mmの砂粒を含む。表面剝離。風化激しく脆い。
- 18 C-7出土。底部。底部推定直径6cm。灰褐色。内面淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。上げ底。
- 19 C-7出土。底部。底部推定直径2.6cm。内面灰白色、外面淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。小片。上げ底。
- 20 C-7出土。底部。底部推定直径4cm。灰褐色。1～2mmの砂粒を少数ながら含む。表面はかなり剝離されているが一部に刷毛目が見える。小片。上げ底。
- 21 C-7出土。口縁部。口縁推定直径約14cm。黄白色。複合口縁部の一部である。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。
- 22 C-8出土。底部。底部推定直径3cm。外面白色、内面灰白色。1～3mmの砂粒を多く含む。表面剝離、摩滅大。上げ底。
- 23 C-8出土。口縁部。口縁推定直径約15cm。灰褐色。複合口縁部の一部である。口縁部、外面に3条の波状文が僅かに残っている。1～2mmの砂粒を含む。摩滅激しい小片。
- 24 I-10出土。蓋坏(坏)。口縁推定直径約15cm。青灰色。1mm以下の細砂粒を含む。内外面撫で仕上げだが、外面下部より篋仕上げ。底部は高台で削り出し仕上げである。

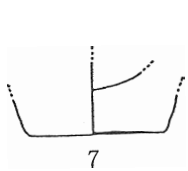


4

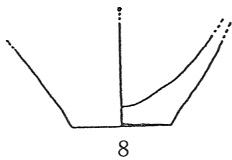
5



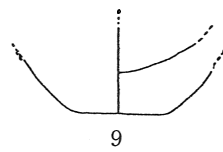
6



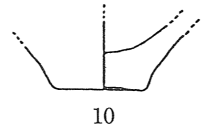
7



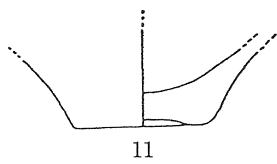
8



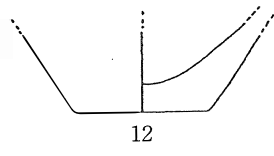
9



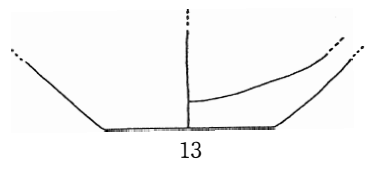
10



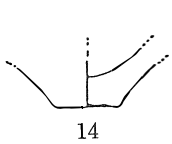
11



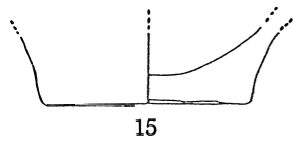
12



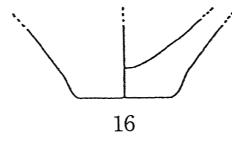
13



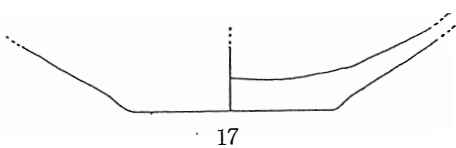
14



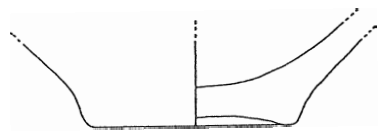
15



16

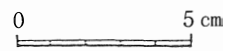
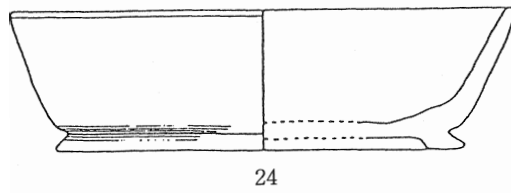
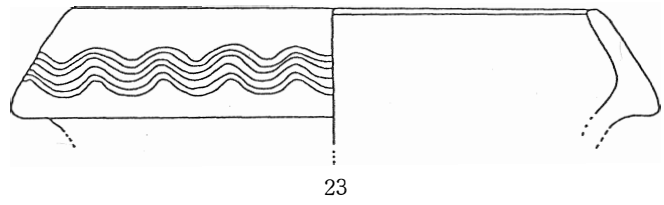
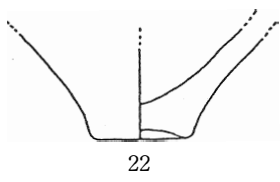
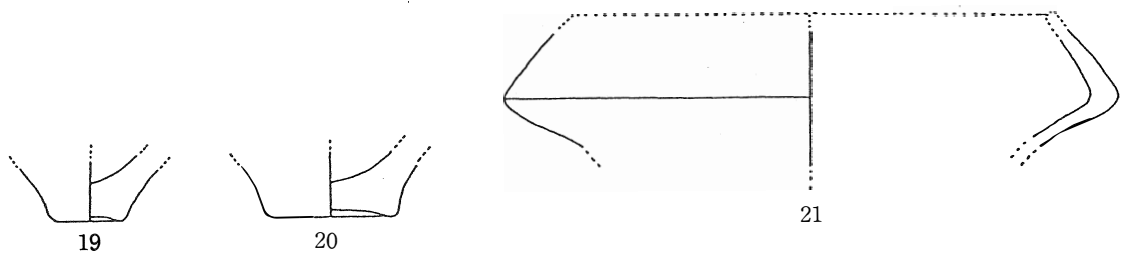


17



18

第15图 第2区域出土遺物(1)



第16図 第2区域出土遺物(2)

3. 第3区域

(1) 層 序

南壁土層（第17図）

第3区域の南端に位置する東西23mの土層である。西端から8mまでは6層だが、それより東になると3～4層に減じる。表土の比高差は無いが安定層における東西の比高差は10cmである。第1区域から続いていた多くの層はこの区域で、安定層の上昇と共に減じる。基本的層序を15m以東を形成する表土層、黄灰色土層、褐色土層、黒褐色土層の4層とする。

第1層 表土（耕作土）層

ほぼ水平に15cm前後の厚さで堆積している、現在の水田耕作土層である。

第2層 黄灰色土層

現在の水田の床土であるが12m以東途切れている。厚さ5cm前後で堆積している。

第3層 褐色土層

5cm前後の厚さで堆積しほぼ水平だが、かなり侵食されている。

第4層 黒褐色土層

安定層を削るように、西端から8mまでは5～10cm前後、14mから東は20cmの厚さで堆積している。東へ行くにつれて、層の下部に河原石が目立つようになる。

東壁土層（第18図）

第3区域の東壁面35mの土層である。南北の比高差は、表土で15cm、安定層では平均して25cmである。基本的層序は表土（耕作土）層、黄灰色土（床土）層、灰褐色土層、黒褐色土層、黒色土層の5層である。南端から15mの層の乱れはコンクリート壁を撤去した跡である。30.5～35m間の深い層は溝である。南端から26.5mにある溝は暗渠設置時に掘られた溝の一部と思われる。

第1層 表土（耕作土）層

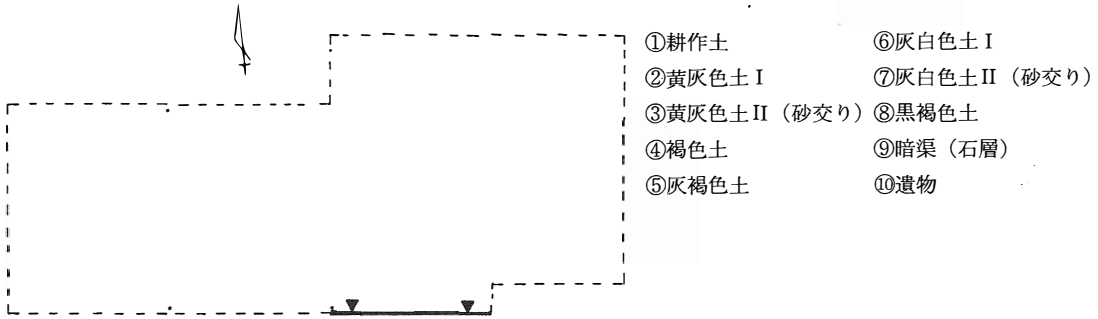
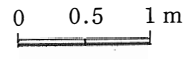
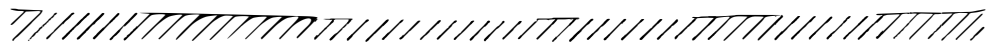
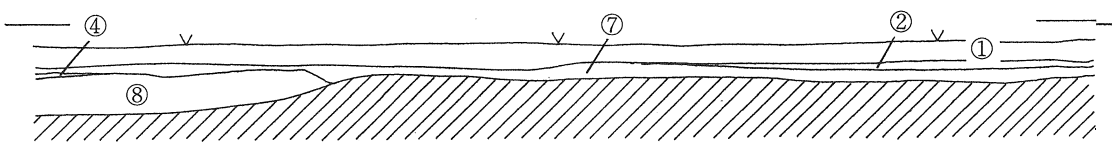
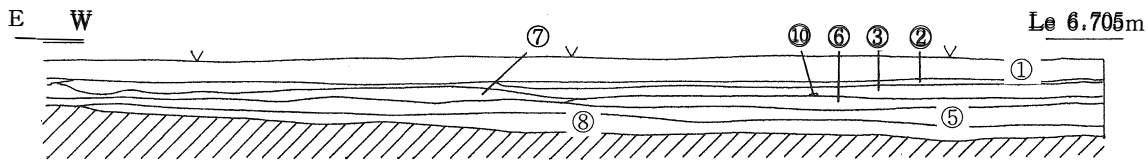
ほぼ水平に15～20cmの厚さで堆積している。現在の水田耕作土層である。

第2層 黄灰色土層

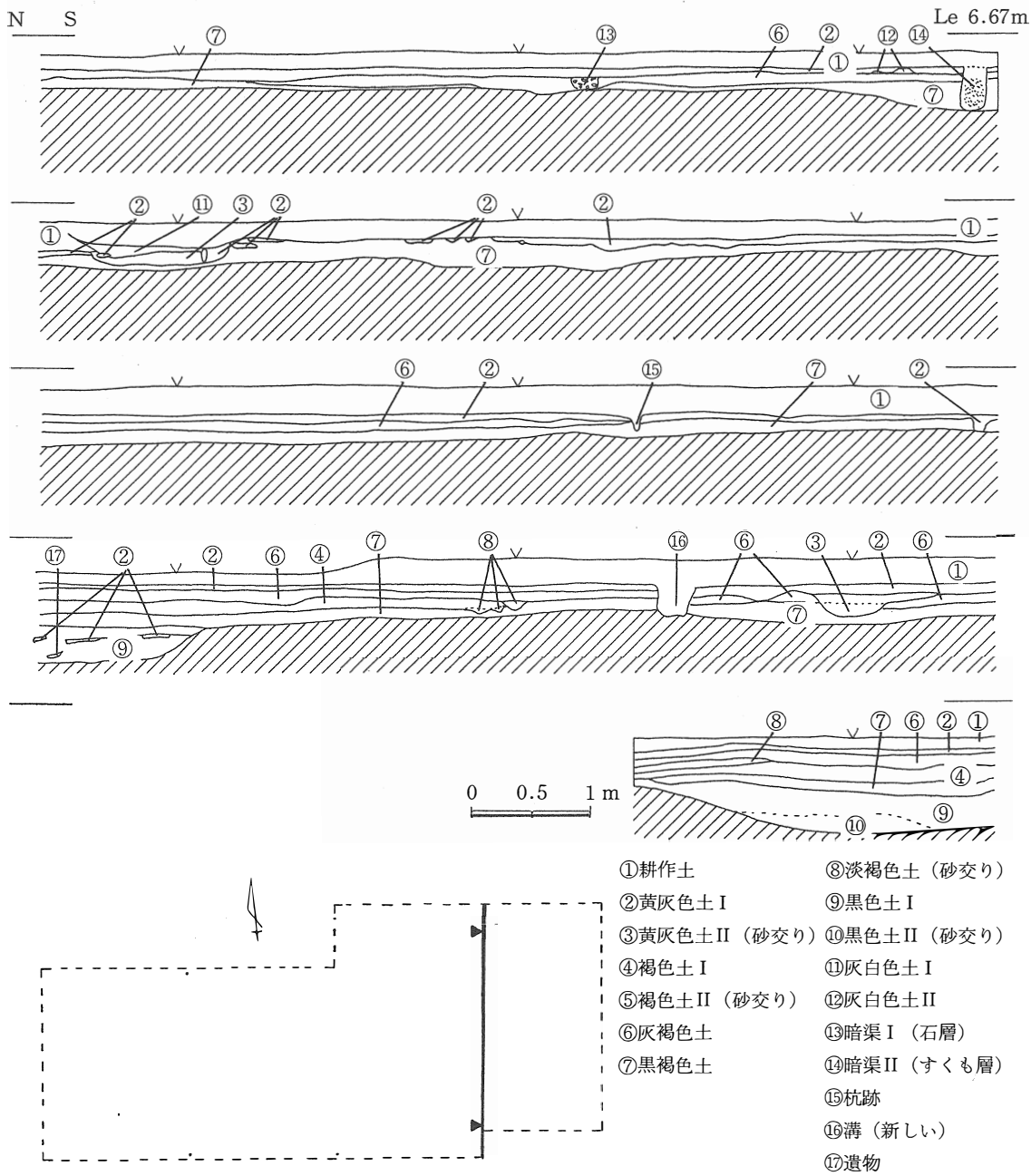
砂を含んだ層と含まない層の2層が存在する。水田の床土を構成する層は5cm前後で水平に堆積し、砂を含んだ層は凹部に遺存している。

第3層 灰褐色土層

平均10cm前後の厚さに堆積している層で、消長の激しい層である。



第17図 第3区域南壁土层图



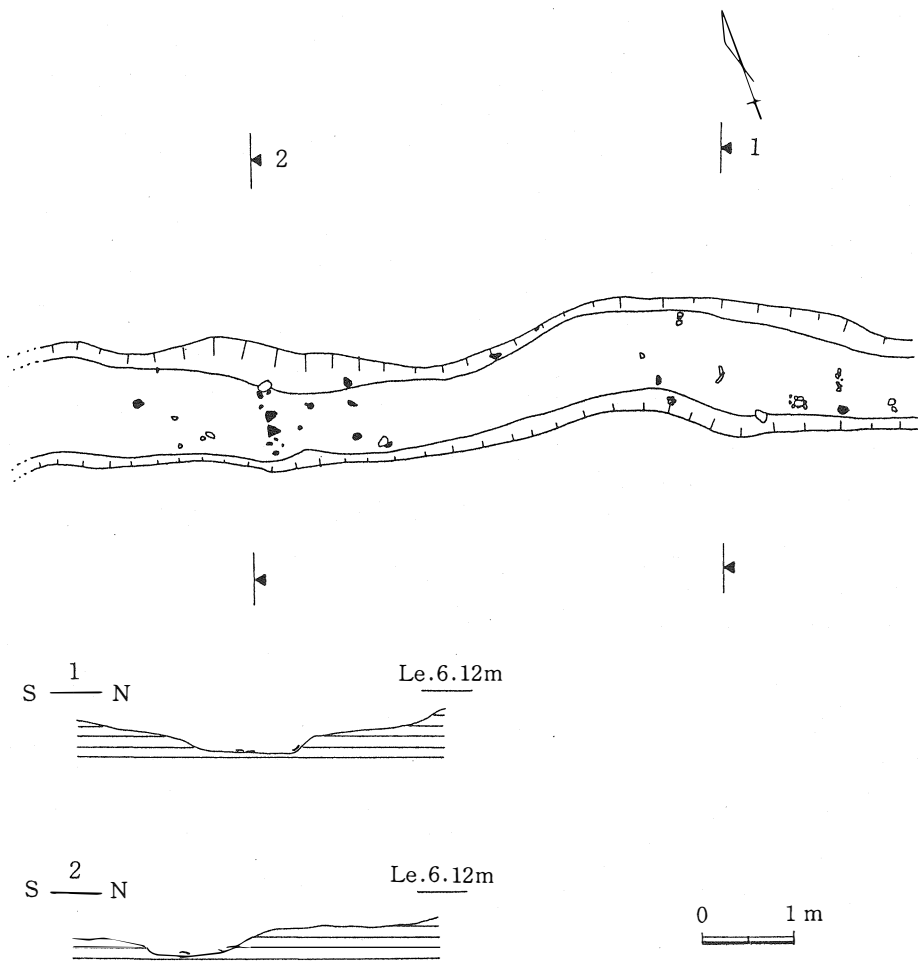
第18図 第3区域東壁土層図

第4層 黒褐色土層

この層は安定層及び、遺構埋土の上部に位置し激しく侵食を受けている層である。5～20cmの不規則な層を成している。

第5層 黒色土層

溝遺構内部を構成する層である。35cm前後の厚さで堆積している。底近くに砂を含んだ層が有り、その前後に遺物が集中している。



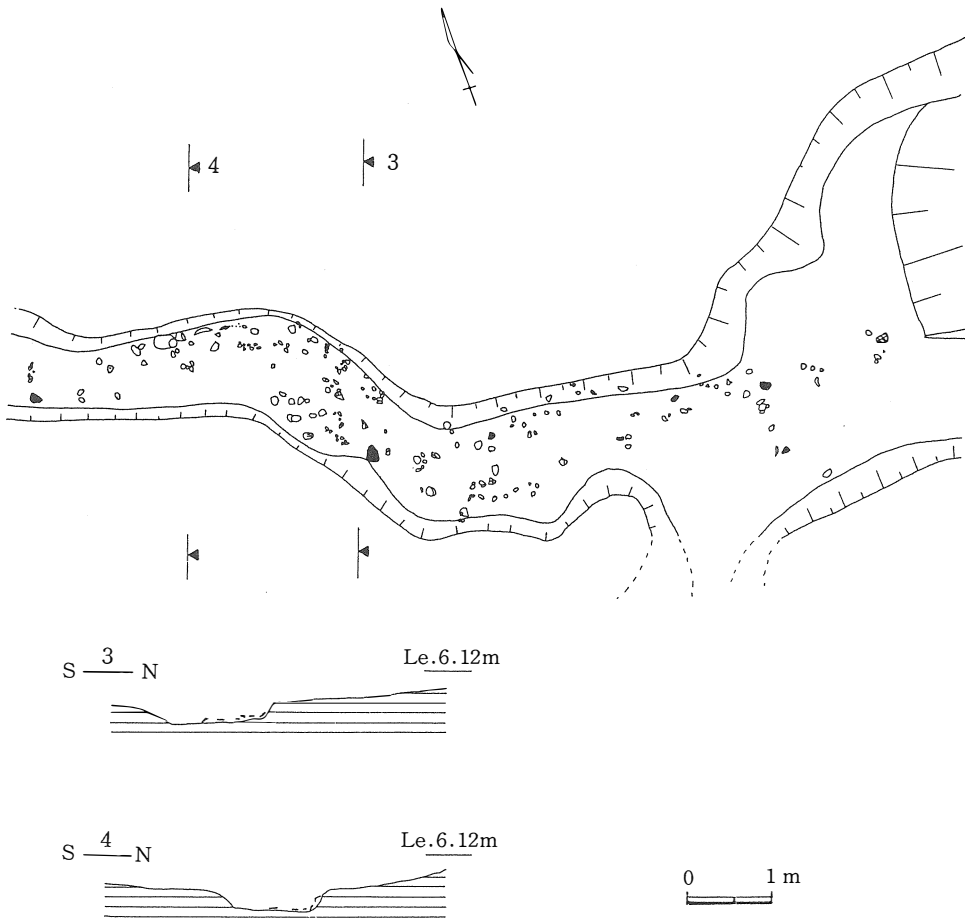
第19図 第3区域3号溝（西半）遺物位置図(1)

(2) 遺 構 (第19・20・21図)

3号溝状遺構

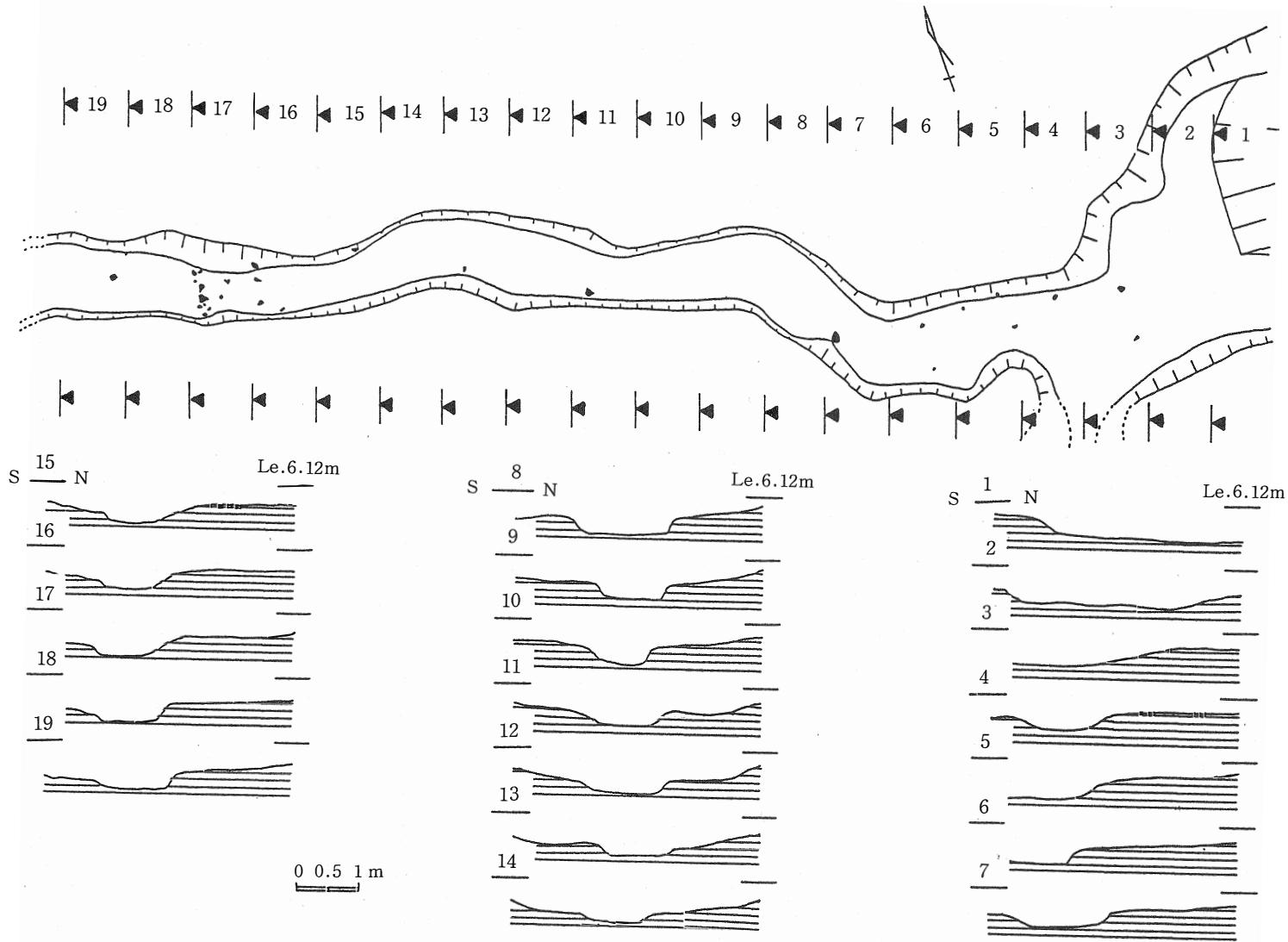
第3区域から第4区域へ伸びる溝状遺構だが、ここでは第3区域内の分のみを述べることにする。溝の方位はN70°Wである。幅の平均は上部で1.5m前後、一番広い所で3.5m。底部は1m前後で、一番広いところで2.5mである。長さは第3区域内で確認された分では約20mである。この溝は、まだまだ西北へ伸びているが調査区域外なので確認できなかった。西端から2.6mの所に川石で堰と思われる物が作られていた。底には砂やジャリが溝全体に堆積していた。溝の形は水の力によって形作られたものと思われる。

底の比高差は東西で21cmであった。この溝は人工的な物では無いかも知れないが自然の溝を上手に利用した物には間違い無いと思われる。まだ東へ続いている。



第20図 第3区域3号溝(東半)遺物位置図(2)

第21图 第3区域3号沟平·断面图



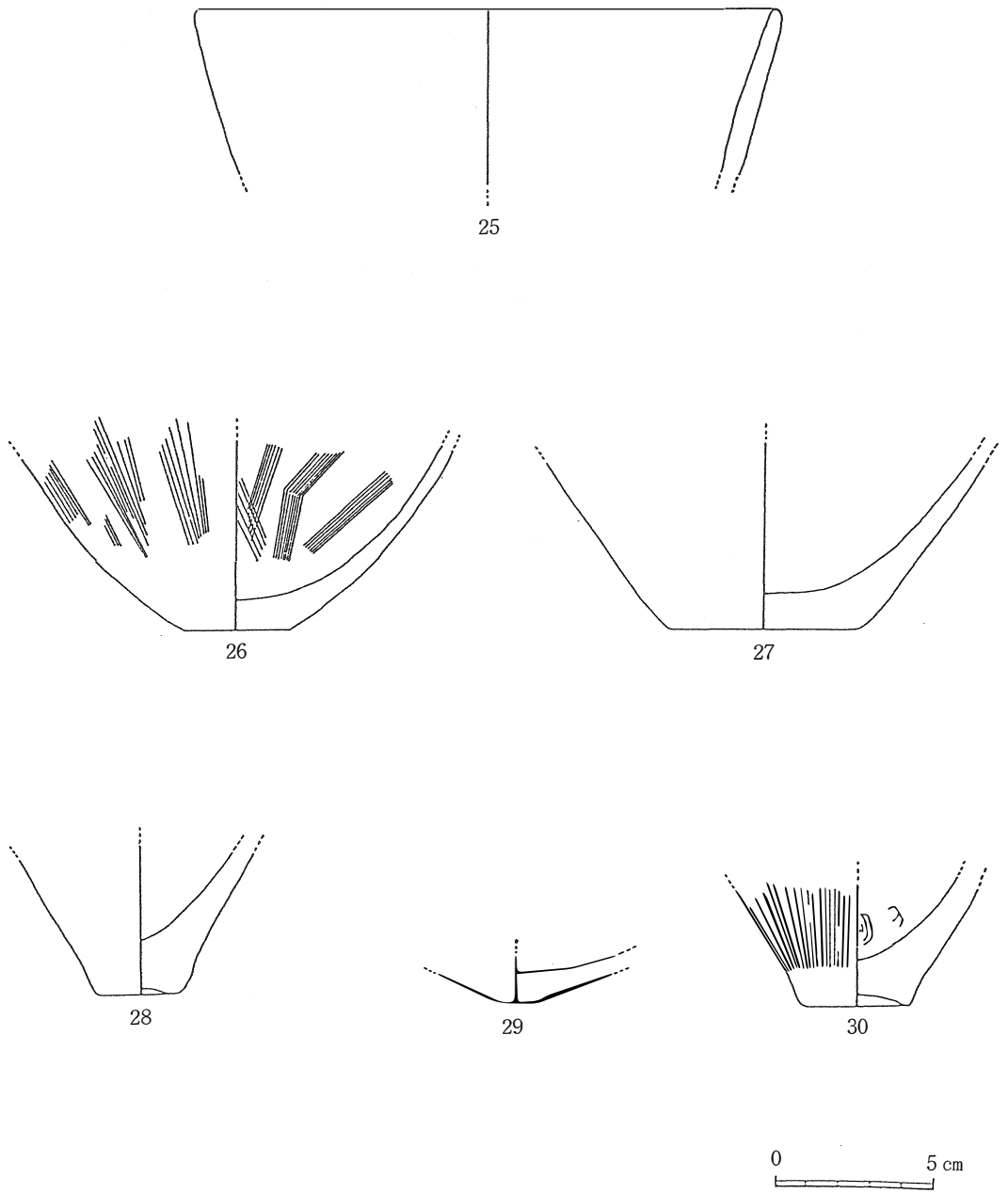
(3) 遺物 (第22～27図)

ほとんどの遺物が溝の中から出土。復元可能な遺物は無く、ほとんど器形の一部に過ぎなかった。土の中に在る間は器面の一部はある程度残っていたが取り上げる段階でほとんどが水に溶けるように剥落。多くの土器も形を崩し復元を不可能にした。以下は第3区域から出土した遺物の中から口縁部、頸部、底部の形状が伺えるものを選んで実測した遺物の観察所見である。

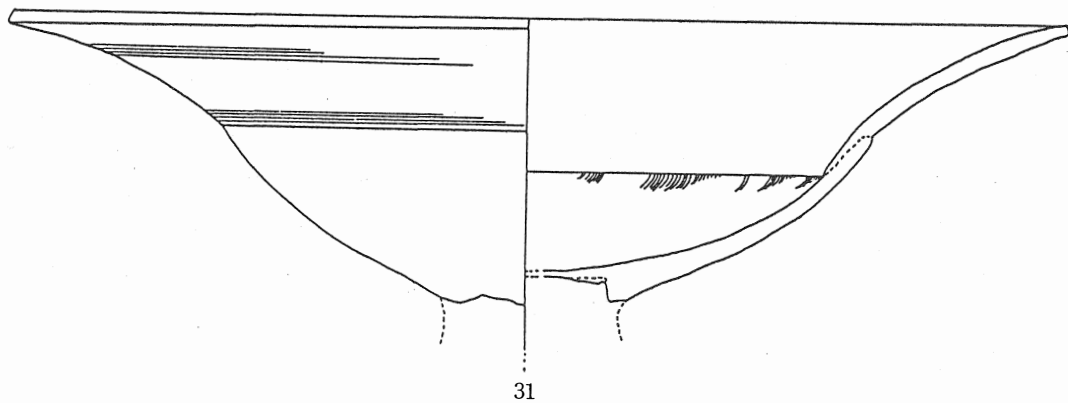
- 25 H-13出土。口縁部。口縁部推定直径19cm。黒及び淡赤色。1～3mmの砂粒を多く含む。表面風化激しく胎土を残すのみ。
- 26 H-14出土。底部。底部推定直径3.4cm。内面黒褐色、外面黒及び灰白色。1～2mmの砂粒を少量含む。内外面をハケ目仕上げ。平底。
- 27 H-14出土。底部。底部推定直径6cm。内面黒褐色、外面黒及び灰白色。1～2mmの砂粒を少量含む。表面剥離。平底。
- 28 H-14出土。底部。底部推定直径2.6cm。表面黄白色。1～5mmの砂粒を多く含む。風化激しい。上げ底。
- 29 H-14出土。底部。底部推定直径1.3cm。表面灰白色、内面黒色。1～2mmの砂粒を少量含む。表面ヘラ磨き仕上げ。
- 30 H-14出土。底部。底部推定直径3.6cm。外面灰褐色、内面に炭化物付着。1～3mmの砂粒を含む。表面ハケ目仕上げ。上げ底。
- 31 H-14出土。口縁部。口縁部直径32cm。灰白色、一部淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。内外面を化粧土で整形。下部腕外面はヘラ磨き仕上げ。鏝部は外面横ハケ目仕上げ。内面ヘラ磨き仕上げ。脚部は取り付け部から欠損。
- 32 H-14出土。坏部。口縁部直径13.4cm。淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。表面を化粧土で仕上げられていたと思われるが、風化が激しく不明。高坏と思われるが脚部は欠損。
- 33 H-14出土。口縁部。口縁部推定直径12.6cm。灰白色。1～4mmの砂粒を多く含む。風化激しく胎土むき出し。表面に、ほんの少しハケ目が伺える。
- 34 H-14出土。底部。底部推定直径5cm。灰褐色。1～3mmの砂粒を多く含む。ほとんどが石英粒で、底部に集中している。内外面はヘラ磨き仕上げ。底部外面に少しだがハケ目が残りに、削りも底部近くに見える。
- 35 H-14出土。頸部。頸部推定直径10cm。表面灰白色。胎土の一部淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。内外面はヘラ磨き仕上げ。凸帯部の一部にすぎず。
- 36 H-14出土。口縁部。口縁部推定直径14.6cm。灰白色。1～3mmの砂粒を含む。表

面は丁寧なへら磨き仕上げ。

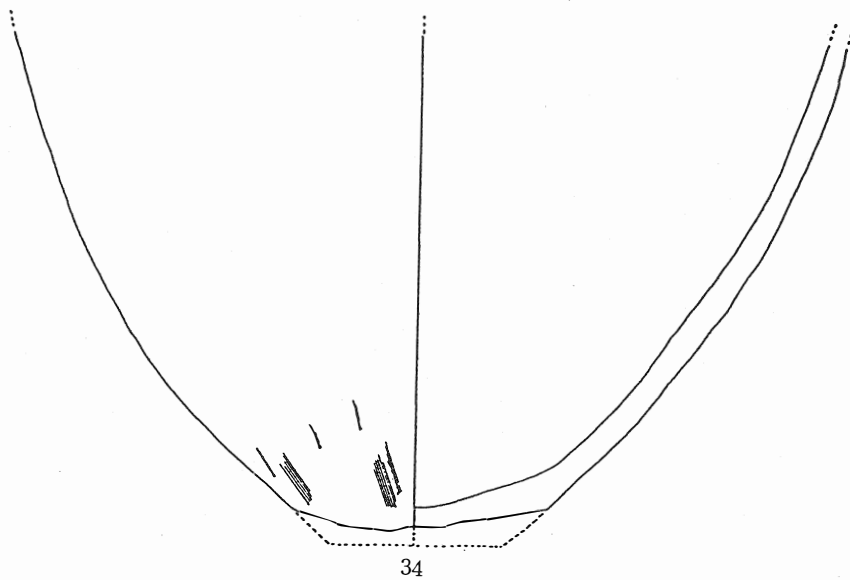
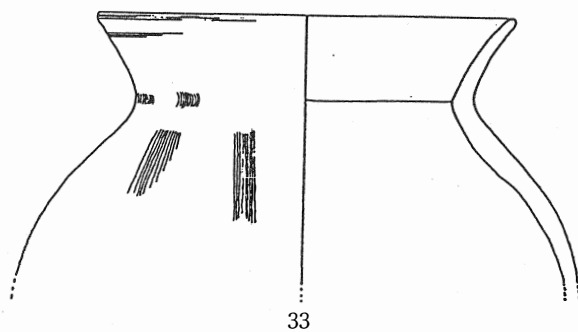
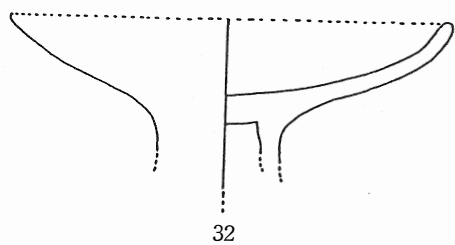
- 37 H-14出土。頸部。頸部推定直径17cm。外部灰白色、内部黄褐色。1～2mmの砂粒を含む。斜め格子の凸帯有り。焼きは良好。
- 38 H-14出土。頸部。頸部推定直径9cm。灰白色。胎土淡赤色。内面黒及び灰褐色。1mm前後の砂粒を含む。頸部に半割り竹管紋を上下二列、それぞれ逆方向に設紋。内外面横ナデ仕上げ。
- 39 H-14出土。口縁部。口縁部推定直径13.6cm。淡赤色。1～3mmの砂粒を含む。表面剝離。一部に残る表面化粧土は灰白色。
- 40 H-14出土。口縁部。口縁部推定直径20cm。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。(当実測図は参考資料に過ぎず。口縁部の上下関係も定かでない。)
- 41 H-15出土。底部。底部推定直径1.4cm。灰白色。中心胎土、茶褐色。1～3mmの砂粒を含む。内面横ナデ仕上げ。外面ハケ目仕上げ。底部は丸底に近い。
- 42 H-15出土。底部。底部推定直径4cm。内面灰白色、外面灰褐色。1～2mmの砂粒を含む。内面ナデ仕上げ、外面叩き仕上げ。脆い。
- 43 H-15出土。底部。底部推定直径2cm。表面灰白色、中心胎土黒褐色。1～4mmの砂粒を多く含む。内外部はハケ目仕上げ。一部に叩き調整の跡が見える。
- 44 H-15出土。底部。底部推定直径9.4cm。灰白色で1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。風化激しく脆い。平底。
- 45 H-15出土。底部。底部推定直径4cm。表面灰白色、胎土灰褐色。1～3mmの砂粒を多く含む。表面はハケ目仕上げ。一部に叩き目有り。平底。
- 46 H-15出土。口縁部。口縁部推定直径15cm。灰白色。1～4mmの砂粒を多く含む。灰褐色の化粧土で表面を仕上げている。口縁部の内面はナデ仕上げ。外面はハケ目仕上げ。胴部の内面上部に絞り跡有り。脆い。
- 47 H-15出土。底部。底部推定直径3cm。内面黒色、外面灰褐色。1～2mmの砂粒を含む。表面ハケ目仕上げ。状態良。



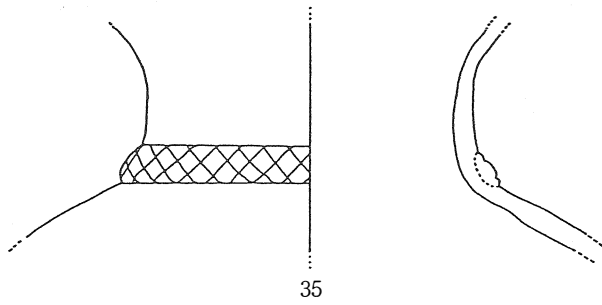
第22図 第3区域出土遺物(1)



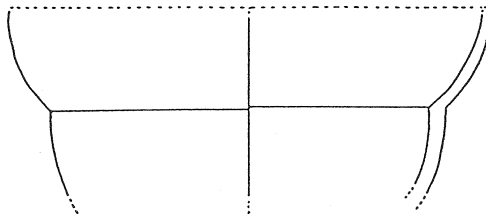
第23图 第3区域出土遺物(2)



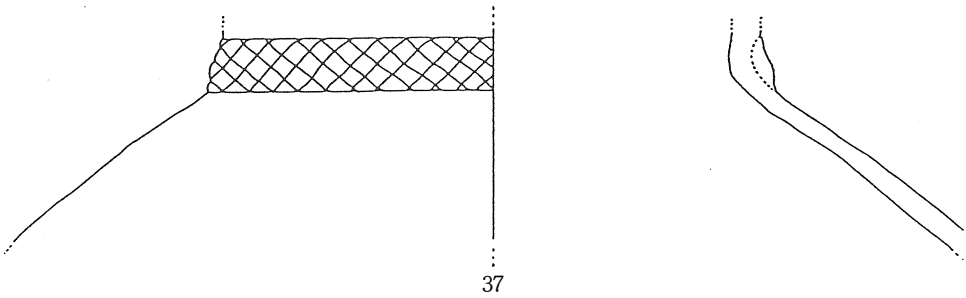
第24图 第3区域出土遺物(3)



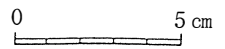
35



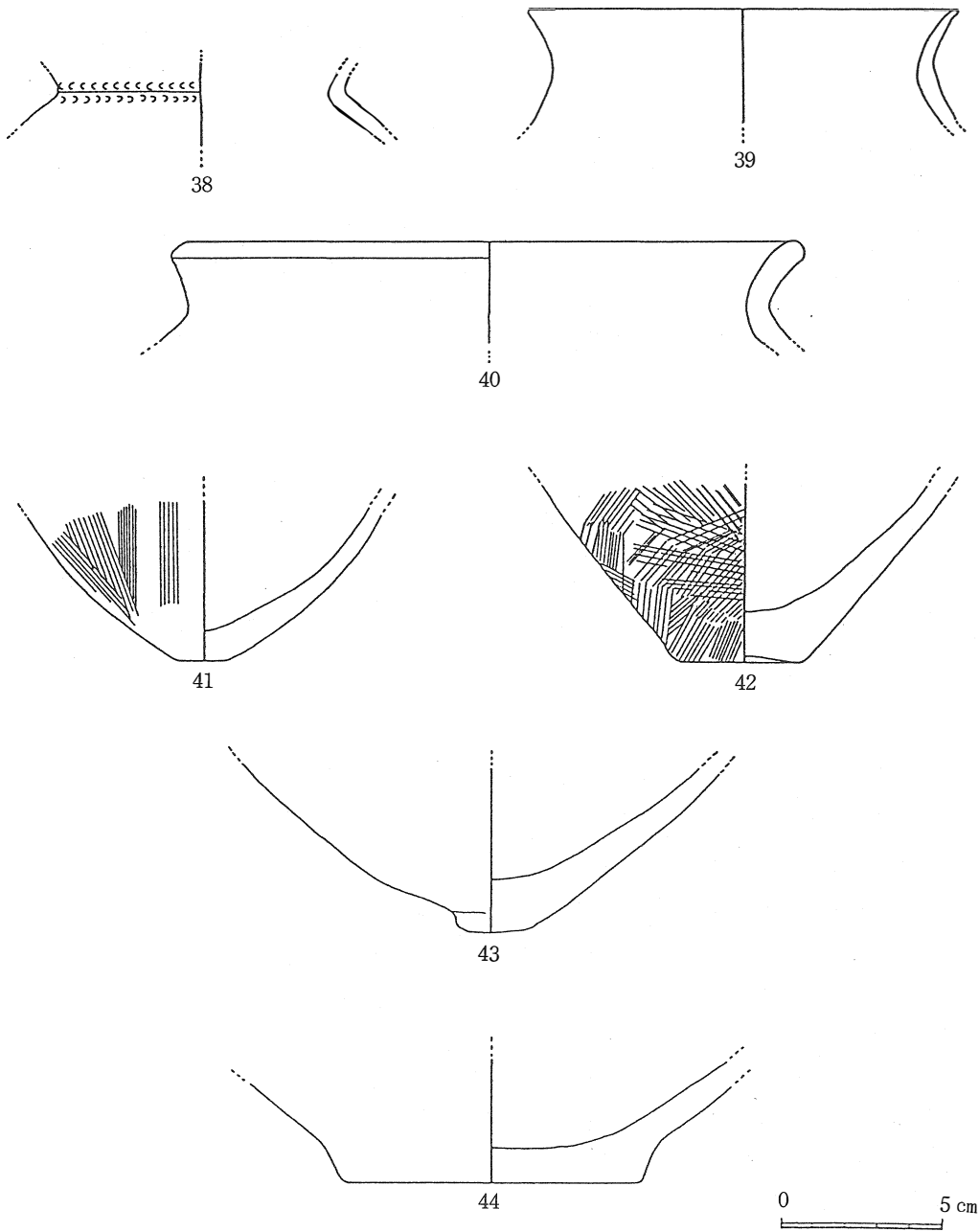
36



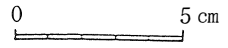
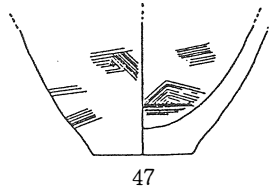
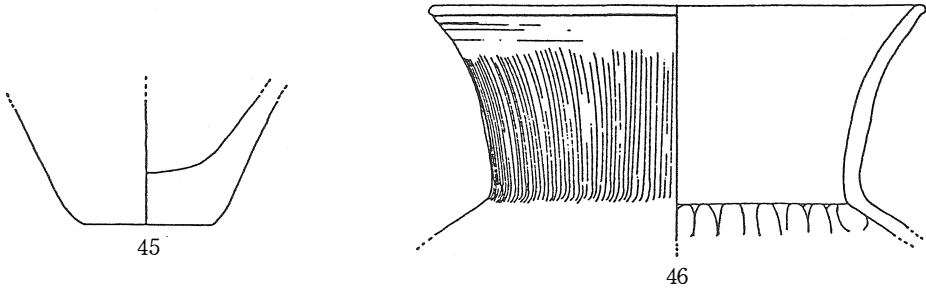
37



第25図 第3区域出土遺物(4)



第26图 第3区域出土遗物(5)



第27図 第3区域出土遺物(6)

4. 第4区域

(1) 層 序

南壁土層 (第28図)

第4区域の南端に位置する東西18mの土層である。東西の比高差は表土面、安定層面共にほとんど無い。基本層序は表土層、黄灰色土層、灰白色土層の3層である。

第1層 表土(耕作土)層

ほぼ水平に15~20cmの厚さで堆積している。

第2層 黄褐色土(床土)層

5~10cmの厚さで堆積している層である。西半において3層と交錯しているが基本的には第2層を構成している。

第3層 灰白色土層

一部褐色土層を包み込むようにして、水平に10cm前後の厚さで堆積している。

東壁土層 (第29図)

第4区域の東端に位置する34mの土層である。場所は水路に沿った水田の端である。層の乱れはそのためであろう。南北の比高差は表土で5cm、安定層で15cmである。基本層序は表土(耕作土)層、灰褐色土層、褐色土層の3層である。

第1層 表土(耕作土)層

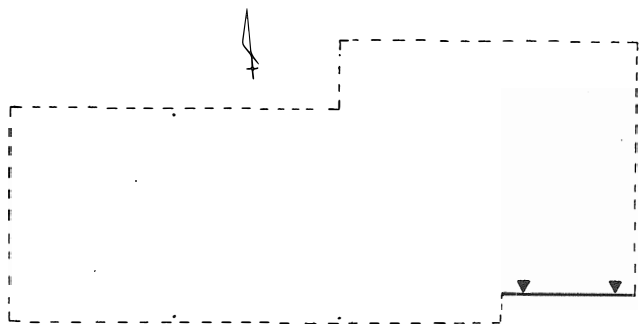
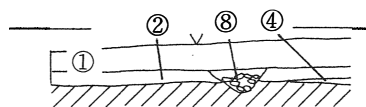
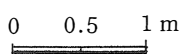
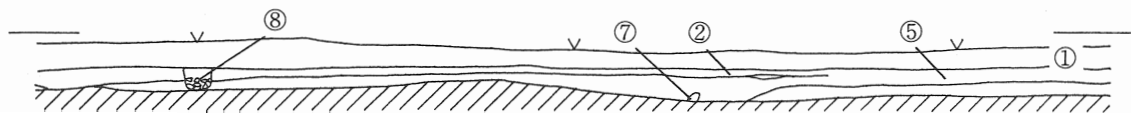
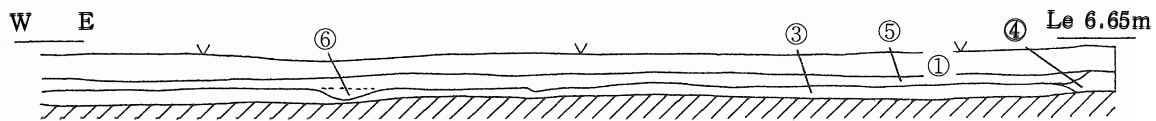
15~20cmの厚さで堆積している。一部畦も含まれている。

第2層 灰褐色土層

5cm前後の層で現在の水田の床土である。一部分しか無いがこれは水路壁のためであろう。

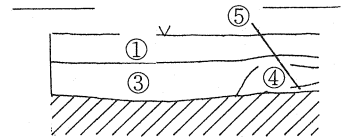
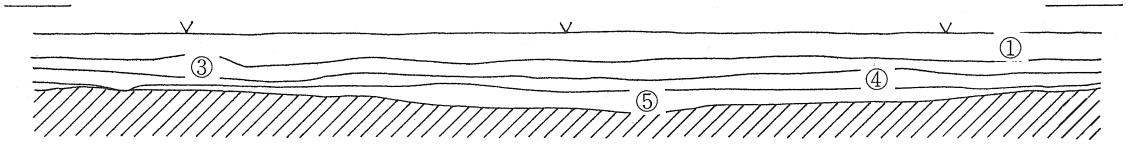
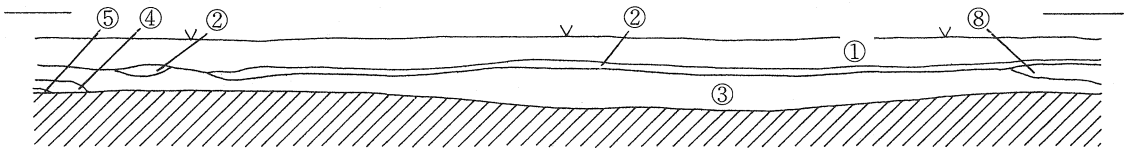
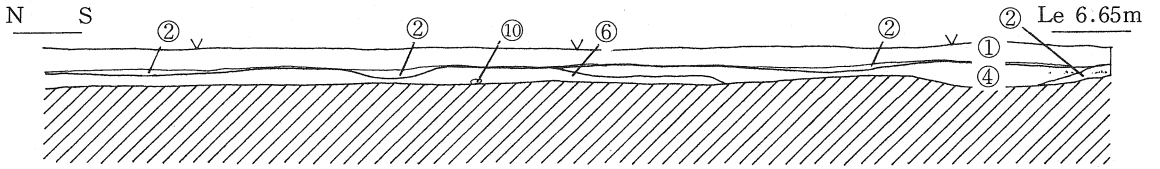
第3層 褐色土層

5~25cmのかなり起伏の激しい層である。

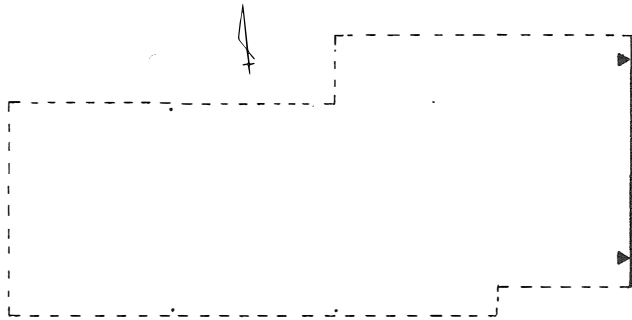


- ①耕作土
- ②黄灰色土
- ③褐色土
- ④灰褐色土
- ⑤灰白色土 I
- ⑥灰白色土 II (砂交り)
- ⑦青灰粘質土
- ⑧暗渠 (石層)

第28図 第4区域南壁土層図



0 0.5 1 m



- ①耕作土
- ②黄灰色土
- ③褐色土
- ④灰褐色土 I
- ⑤灰褐色土 II
- ⑥茶褐色土
- ⑦黄褐色土
- ⑧黑色土
- ⑨コンクリート壁
- ⑩石
- ⑪混合土

第29図 第4区域東壁土層図

(2) 遺 構 (第30図)

第3区域から続いている3号溝状遺構である。第4区域に入って大きく南へ向きを変え南へと続いている。第4区域内の溝の長さは15mである。溝の方位はN16°Wである。

溝幅の平均は上部で1.5m、底は1m前後である。比高差は南北で32cmである。溝の底には砂やジャリが薄く堆積していた。H-16区の池状の落ち込みは溝底より40cm以上あり発掘時も盛んに水が湧いていた。砂やジャリが多く含まれていたが遺物は出土せず。溝を埋めている土は黒褐色土であるが、池状の落ち込みは黒色土である。これら黒色土層の上に溝状遺構は形成されたようである。

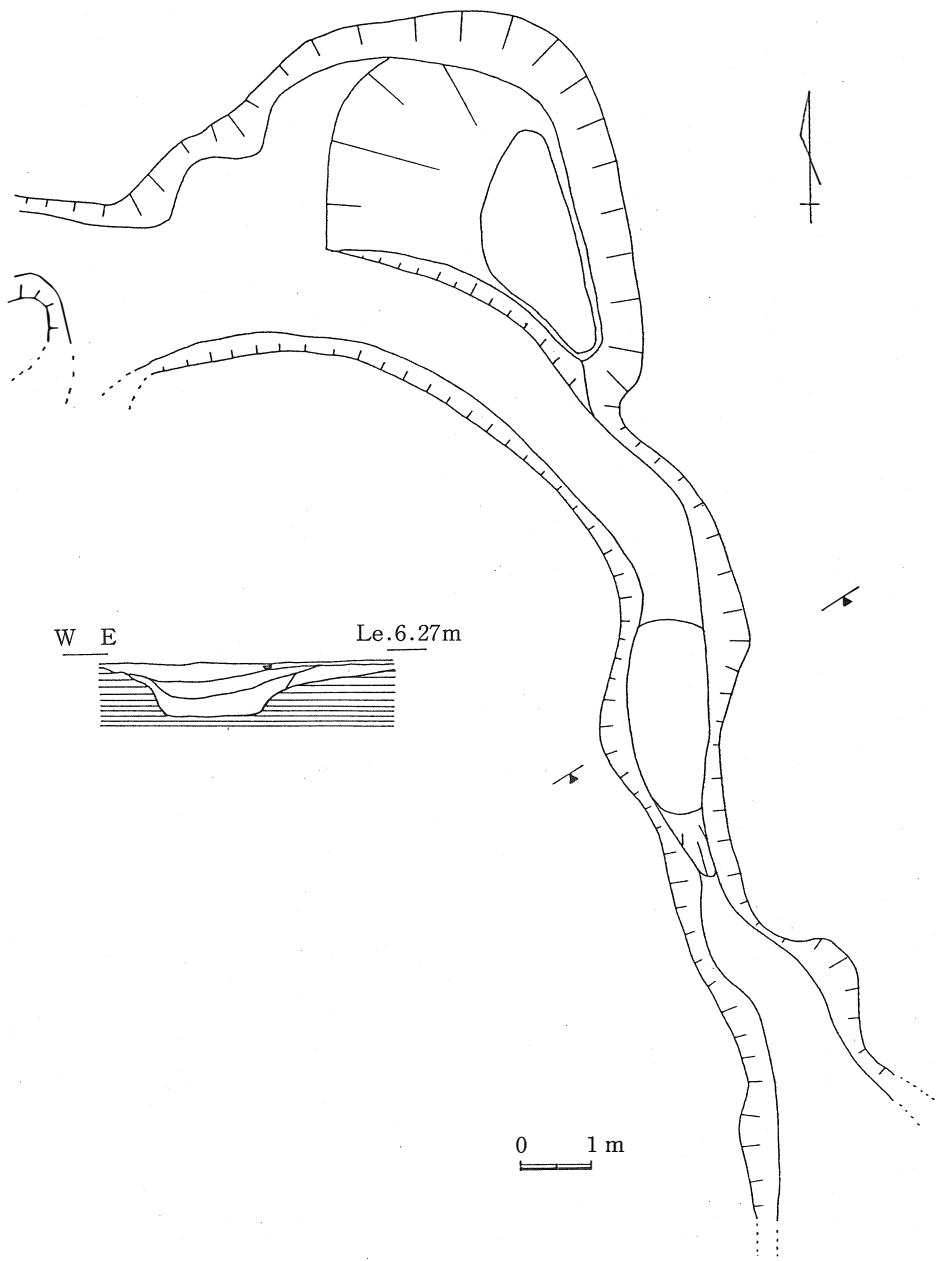
(3) 遺 物 (第31～34図)

今回の発掘でただ一つ復元できた土器(50)が出土した。G-16区の溝底からの出土だった。弥生後期と思われる浅鉢である。須恵器が4個体分出土している。

遺物59、60、64は2層下部から、65は3層の黒褐色土I層上部から出土。溝の遺物は黒褐色土II層下部から出土。

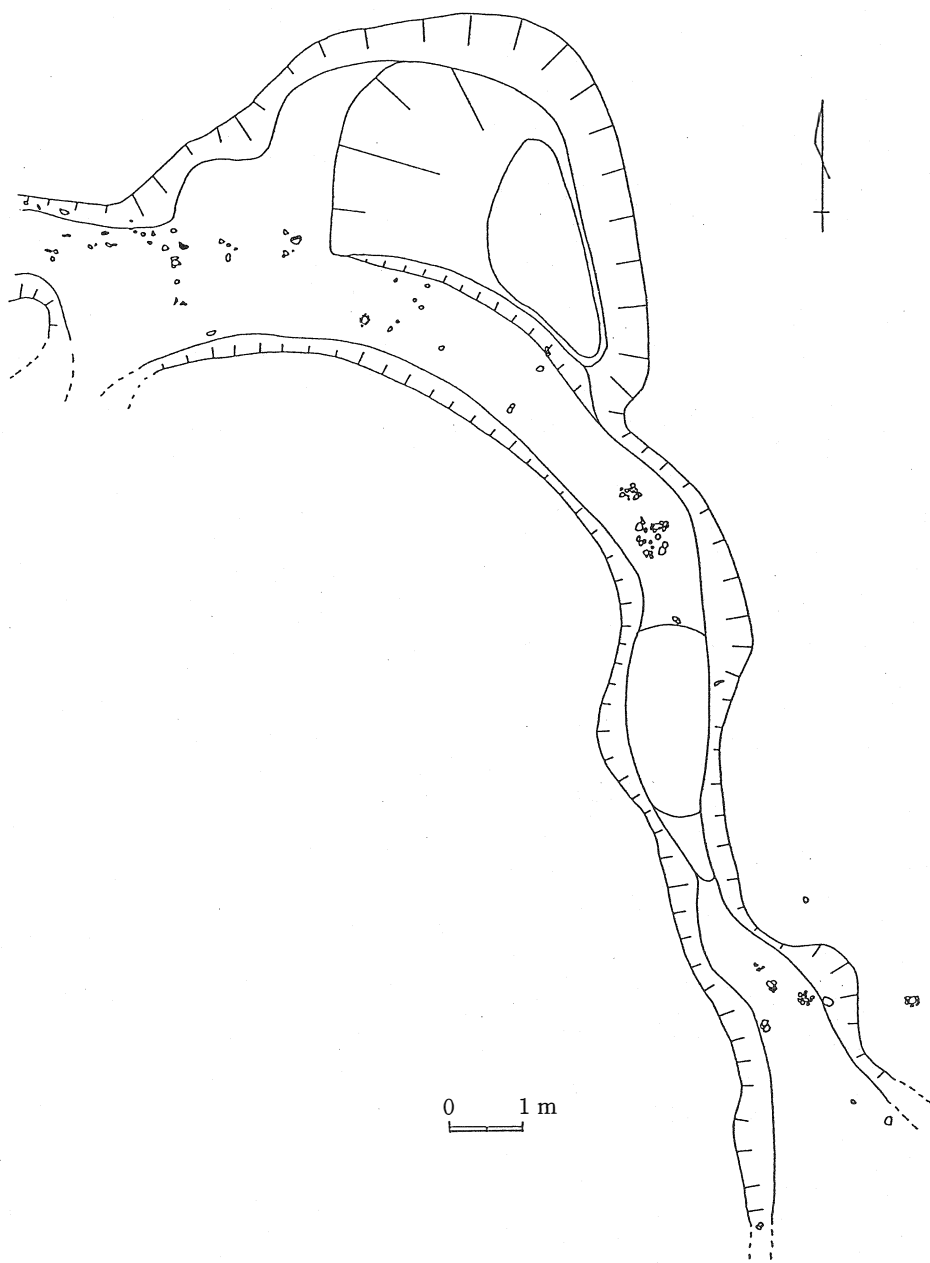
以下は第4区域から出土した遺物の中から全体、口縁部、頸部、底部の形状が伺えるものを選んで実測した遺物の観察所見を述べたものである。

- 48 G-16出土。底部。底部推定直径4cm。灰白色。底部に二次焼成の淡赤色有り。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。
- 49 G-16出土。底部。底部推定直径4.6cm。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離。平底。
- 50 G-16出土。浅鉢。口縁部直径20cm。器高9.4cm。灰白色。1～2mmの砂粒を全体に含み、所々に3～4mmの砂粒有り。外面ハケ目仕上げであるが不規則。内面底部に絞り跡有り。口縁部に横ハケ目有り。丸底。数少ない復元可能な土器である。
- 51 G-16出土。胴部。口縁部推定直径14cm。外表面灰褐色、胎土灰白色。1～4mmの砂粒を多く含む。全体に風化激しく、ほとんどが中心胎土。ごく一部にハケ目が見える。
- 52 G-16出土。口縁部。口唇部推定直径11.6cm。表面灰白色。中心胎土灰褐色。1～2mmの砂粒を含む。内面くびれ部に、僅かにハケ目が見られる。表面摩滅。
- 53 G-16出土。頸部の張り付け凸帯の一部にすぎず。表面黒褐色土。復元不能。
- 54 G-16出土。口縁部。口縁部推定直径15cm。灰白色。表面の一部黒褐色。1～3mmの砂粒多く含む。風化激しく脆い。内外面の表面に、僅かながらハケ目が見える。粗雑。

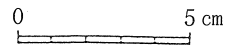
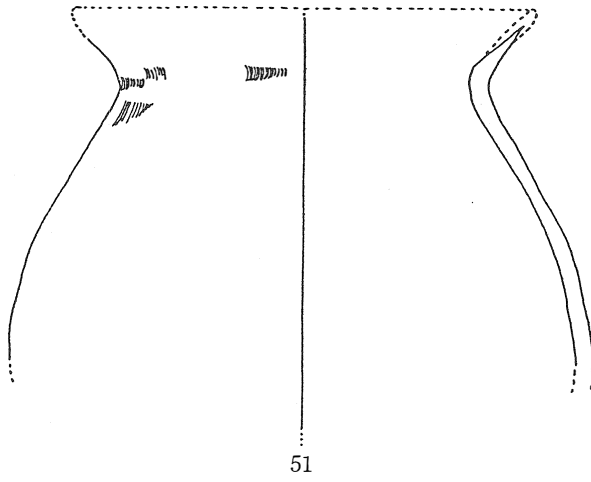
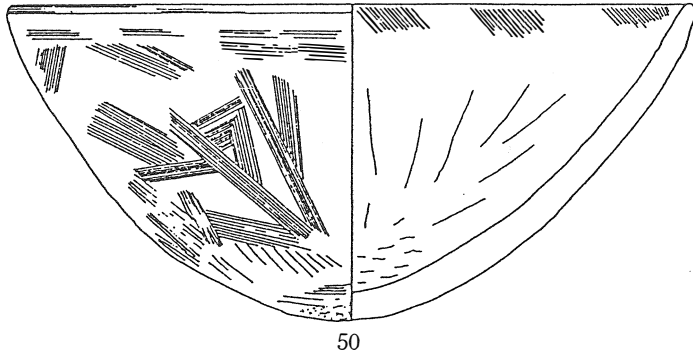
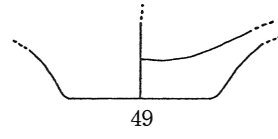
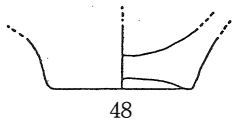


第30图 第4区域3号沟平·断面图

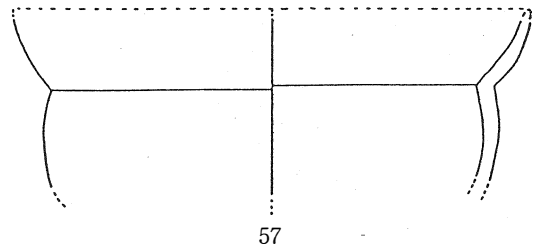
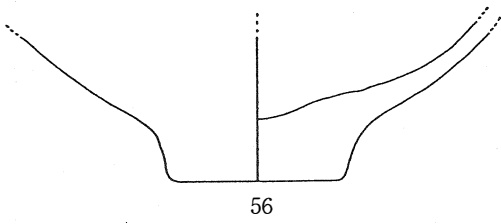
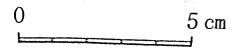
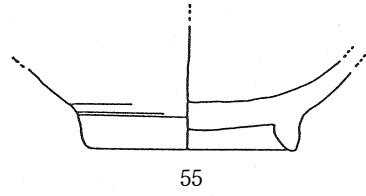
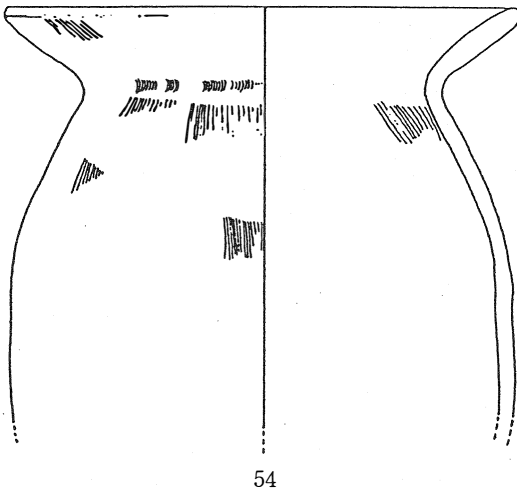
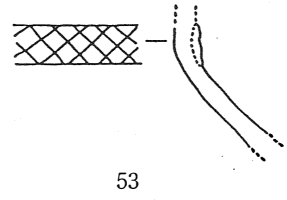
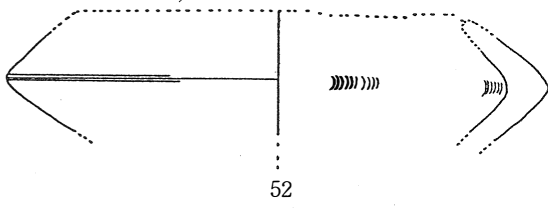
- 55 G-17出土（床土下部より出土）。底部。底部直径6.2cm。内面黒色、外面灰白色。内面へら磨き、外面は轆轤によると思われる横ナデ仕上げ。底部高台。
- 56 G-17出土。底部。底部推定直径5cm。灰白色。底部外面は黒色。1～3mmの砂粒を含む。内外面はナデ仕上げ。焼成良。平底。
- 57 G-17出土。口縁部。口縁部推定直径15cm。灰褐色。1mm前後の砂粒を含む。表面は丁寧なへら磨き仕上げ。焼成良。
- 58 F-17出土。底部。底部推定直径5.4cm。全体に灰色。1～2mmの砂粒多く含む。表面剝離。
- 59 F-17出土（床土下部より出土）。須恵器。蓋坏（坏）。口唇部直径12cm。青灰色。1mm前後の細砂粒を少量含む。内外面とも横ナデ仕上げ。下部外面無整成。
- 60 F-17出土（床土下部より出土）。須恵器。蓋坏（坏）。口唇部推定直径12.6cm。青灰色。1mm以下の細砂粒を含む。内面ナデ仕上げ。外面残部下面よりへら削り仕上げが始まる。
- 61 F-17出土。胴部。口唇部推定直径11.6cm。淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。風化激しい。
- 62 E-17出土。底部。底部推定直径13.4cm。全体に灰白色。1～2mmの砂粒を多く含む。風化激しく、表面剝離。
- 63 E-17出土。底部。底部推定直径7.6cm。灰白色。1～2mmの砂粒多く含む。風化激しく表面剝離。
- 64 E-17出土（床土下部より出土）。須恵器。蓋坏（蓋）。口唇部推定直径14cm。青灰色。1～7mmの砂粒を含む。外面頂部をへら削り仕上げ。
- 65 E-17出土。須恵器。蓋坏（坏）。口唇部推定直径11.8cm。灰白色。1mm前後の細砂粒を少量含む。内外面を横ナデ仕上げ。小片にすぎず。
- 66 E-17出土。口縁部。口唇部推定直径9cm。淡赤色。1～3mmの砂粒を含む。表面剝離。



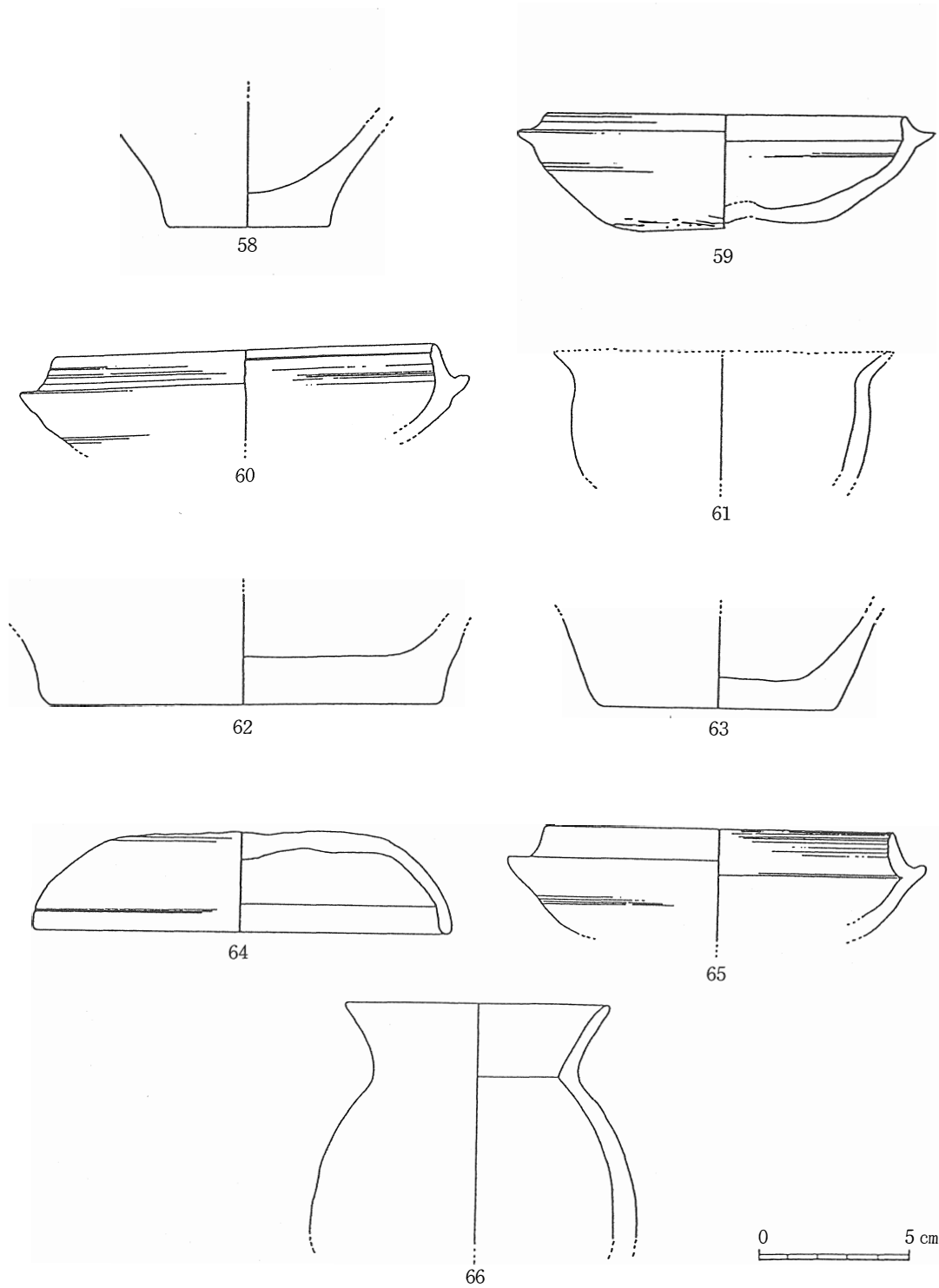
第31图 第4区域3号溝・遺物位置図



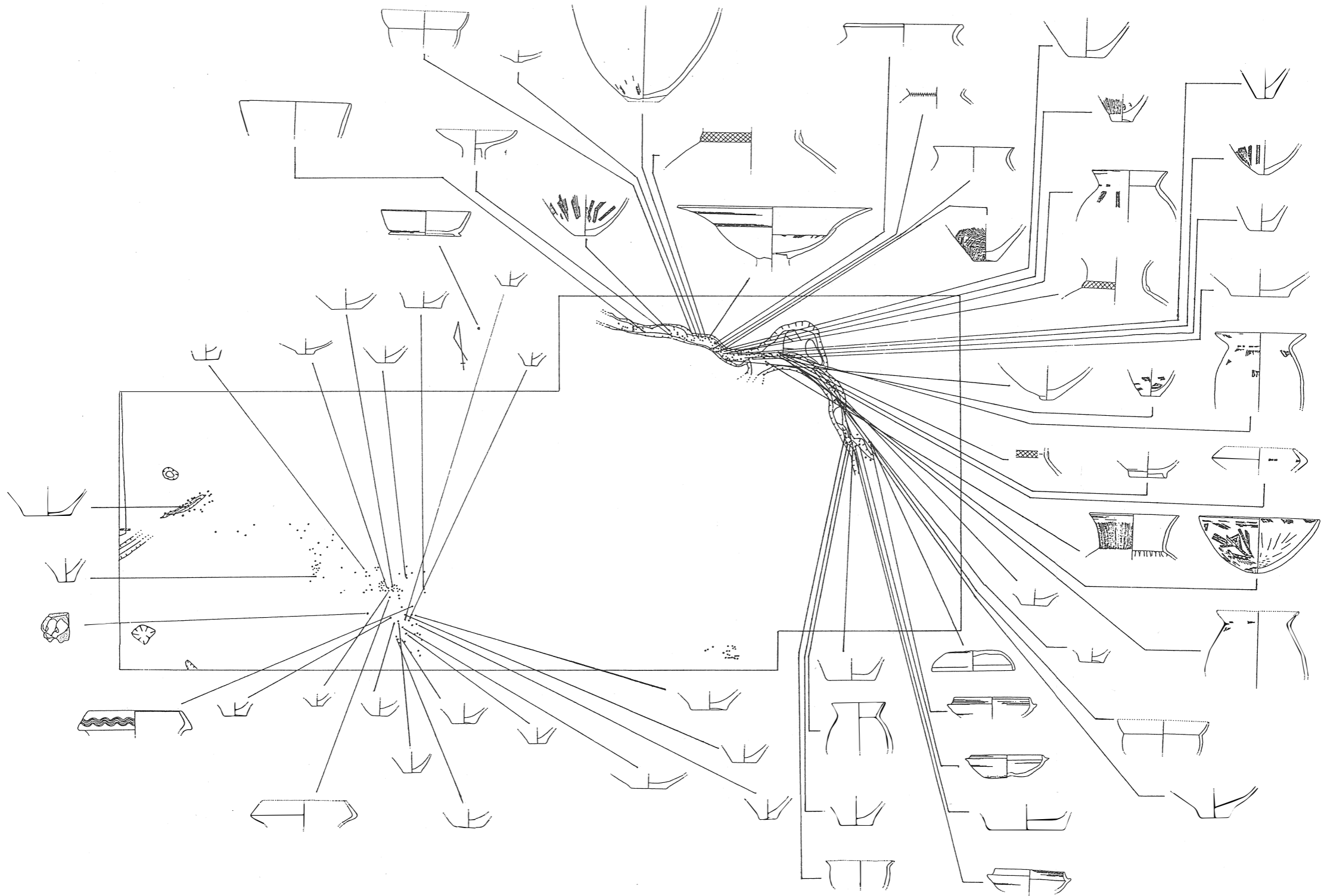
第32图 第4区域出土遺物(1)



第33图 第4区域出土遗物(2)



第34图 第4区域出土遺物(3)

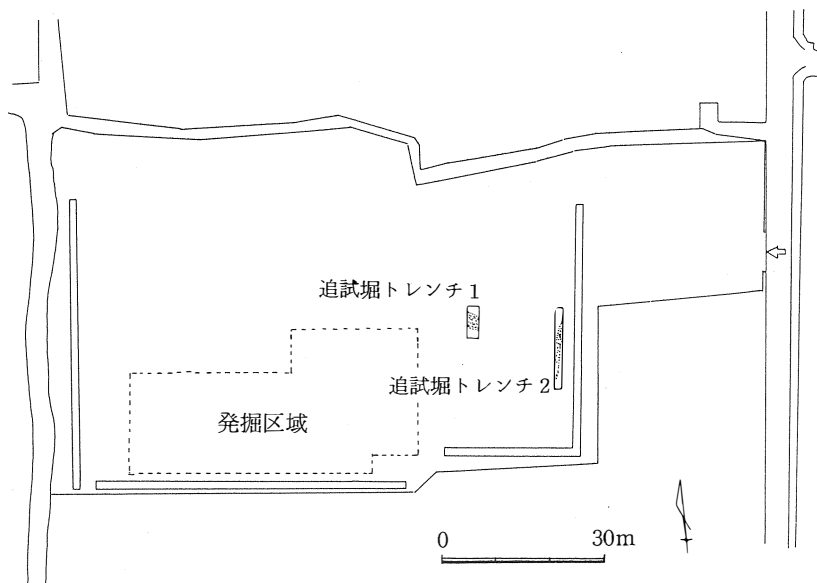


第35図 遺構及び出土遺物位置図

5. 追試掘

発掘の結果と、試掘調査の結果が一致しないので第4区域の発掘が一段落した時点で、この疑問を解決すべく試掘調査トレンチ（NO.3トレンチ）近くを追試掘する計画を立てた。急遽、松前町教育委員会と農協関係者による話し合いが行われ了解が得られたので調査を実行。2日間の調査であったが試掘調査結果が正しかった事を確認。多くの成果を得た。

第4区域から20～30mの所（第36図）を2ヶ所追試掘。表土から40～50cmで安定層となり、その上部の黒褐色土層より縄文晩期から弥生前期末と思われる土器片が出土した。いかなる遺構であるかは確認できなかったが溝状遺構に伴うものである事はまず間違いないと思われる。



第36図 追試掘トレンチ位置図

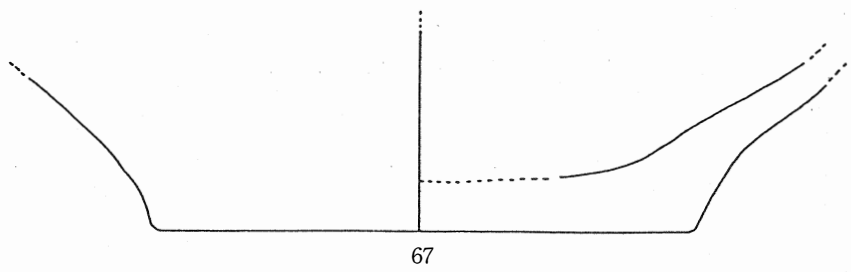
遺物 (第37~40図)

以下は追試掘の時に出土した遺物の中から口縁部、底部の形状が伺えるものを選んで実測した遺物の観察所見である。

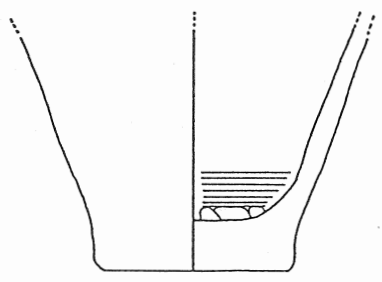
- 67 底部。底部推定直径16cm。内面及び外面の一部、灰白色。外面淡赤色。1~5mmの砂粒多く含む。内外面ナデ仕上げ。表面剝離。平底。
- 68 底部。底部直径6cm。灰白色。胎土に1~2mmの砂粒を含む。内外面は化粧土を用いてハケ目仕上げ。平底。
- 69 底部。底部直径6cm。灰白色。底部外面の一部黒色。内面ナデ仕上げ。外面はナデ仕上げの後、ヘラ磨き仕上げ。底部外面に一本ヘラによる凹線有り。焼成良。平底。
- 70 底部。底部直径9cm。1~2mmの砂粒多く含む。内面灰白色。外面灰褐色。底部側面に指の圧跡有り。表面剝離。平底。
- 71 底部。底部推定直径11cm。1~2mmの砂粒を含む。内面黄白色。外面灰褐色。底部側面に指の圧痕有り。表面剝離。平底。
- 72 底部。底部推定直径9cm。1~2mmの砂粒を少量含む。内面黄白色でナデ仕上げ。外面灰白色でヘラ磨き仕上げ。平底。
- 73 底部。底部推定直径8cm。1~2mmの砂粒を含む。内外面褐色。表面剝離。平底。
- 74 底部。底部直径7cm。1~2mmの砂粒を含む。内面灰褐色、外面灰白色。底部に靱圧痕有り。表面剝離。平底。
- 75 底部。底部推定直径6.6cm。灰白色。1~3mmの砂粒を含む。表面風化激しい。
- 76 底部。底部推定直径9cm。1mm前後の細砂粒を含む。内面灰白色。外面灰褐色。内面に指の圧痕有り。外面はヘラ磨き仕上げ。平底。
- 77 底部。底部直径6.4cm。内面淡赤色。外面灰白色。内外面ヘラ磨き仕上げ。底部外面に指の圧痕有り。指でつまんで底部を整形したと思われる。やや上げ底ぎみ。
- 78 刻み目突帯紋を持つ小さな土器片である。1~2mmの砂粒を含む。外面茶褐色。内面灰白色。深鉢の一部と思われるが詳細は不明。表面ナデ仕上げ。
- 79 口縁部。口縁部推定直径19cm。1~2mmの砂粒を含む。内面灰白色。外面茶褐色。口唇部外面にヘラによる刻目有り。内外面ヘラ磨き仕上げ。
- 80 口縁部。口縁部推定直径22cm。1~2mmの砂粒を含む。灰褐色。表面剝離。
- 81 口縁部。口縁部推定直径24cm。1~2mmの砂粒を含む。黄白色。表面は化粧土でヘラ磨き仕上げ。
- 82 口縁部。口縁部推定直径9cm。1~2mmの砂粒を含む。灰白色。表面剝離。
- 83 口縁部。口縁部推定直径21cm。1~2mmの砂粒を含む。胎土は淡赤色。表面化粧土は灰褐色。表面ヘラ磨き仕上げ。表面剝離。口唇部に二次焼成を受けた跡有り。(器

形復元も不確実なものである)

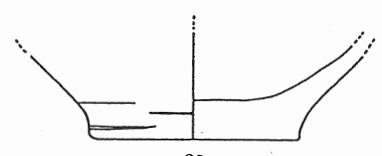
- 84 口縁部。口縁部推定直径21cm。1mm前後の砂粒を含む。胴部に稜が有り、そこに刻目が不明瞭ながら有り。(器形復元も不確実なものである)
- 85 口縁部。口縁部推定直径29.4cm。1～2mmの砂粒を含む。外面淡赤色。内面(化粧土)灰白色。内外面はハケで整形し後でヘラ磨き仕上げを行ったと思われる。(器形復元も不確実なものである)
- 86 口縁部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。
- 87 口縁部。灰褐色。1～2mmの砂粒を含む。
- 88 口縁部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。
- 89 口縁部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。
- 90 口縁部。灰褐色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。
- 91 口縁部。灰褐色。1mm前後の砂粒を含む。表面剝離大。
- 92 口縁部。淡赤色。1～2mmの砂粒を含む。頸部に張り付け有り。
- 93 口縁部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。
- 94 口縁部。灰白色。1～2mmの砂粒を含む。表面剝離大。



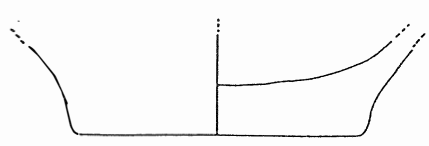
67



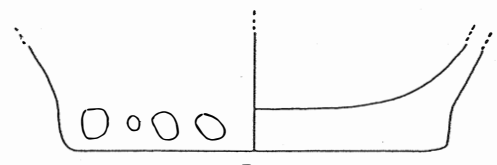
68



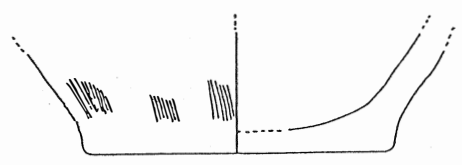
69



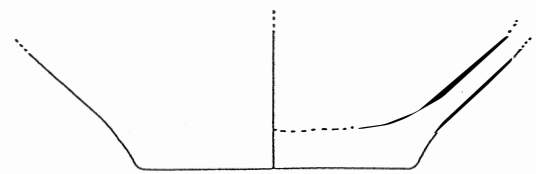
70



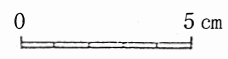
71



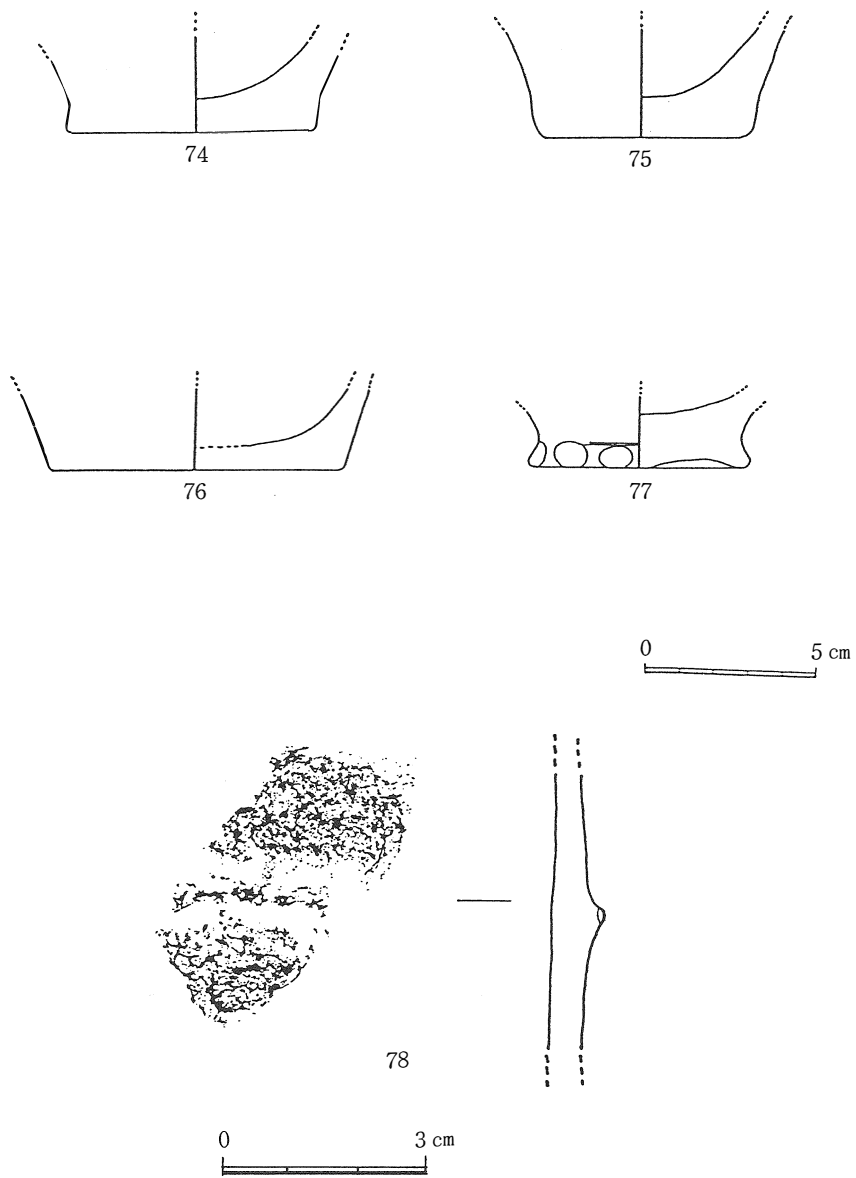
72



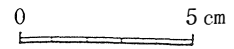
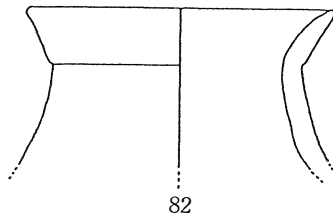
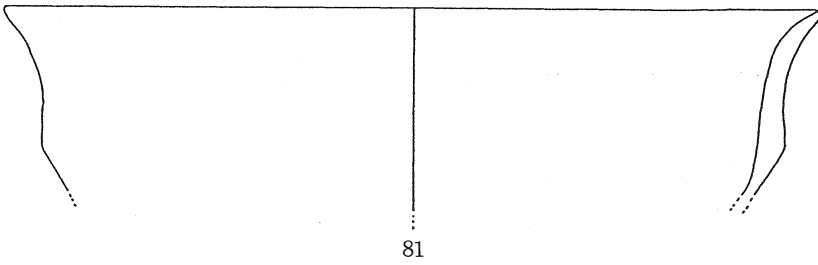
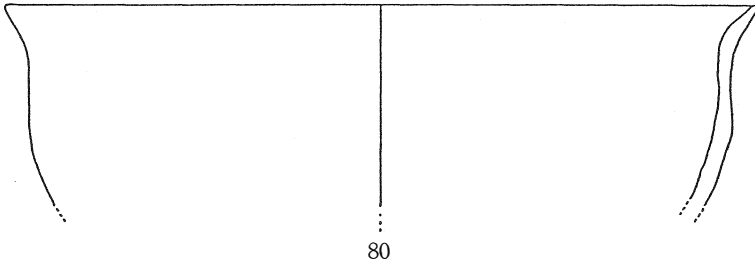
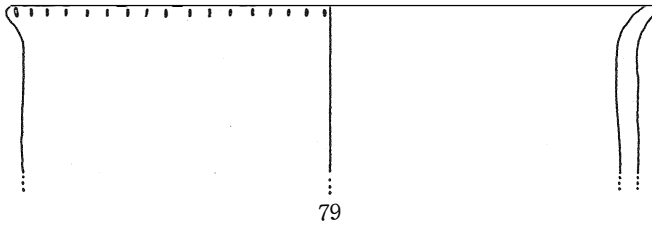
73



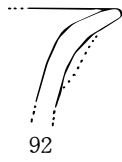
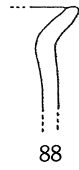
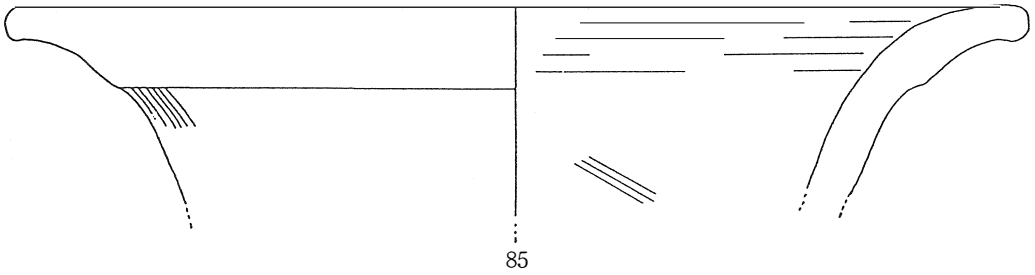
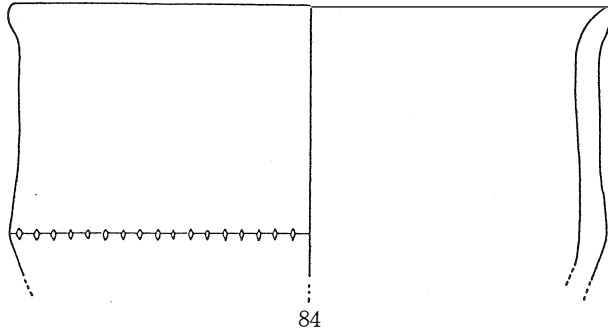
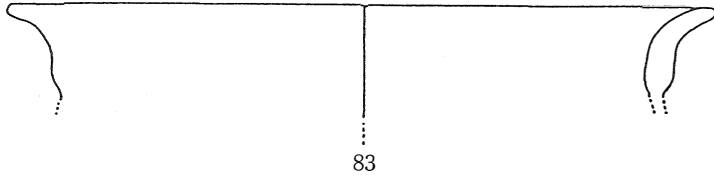
第37図 追試掘出土遺物(1)



第38図 追試掘出土遺物(2)



第39図 追試掘出土遺物(3)



第40図 追試掘出土遺物(4)

IV ま と め

今回の発掘で出土した遺構、遺物は発掘面積に比べては少なく、遺構は1号～3号土坑と、1号～3号溝、それに2号溝に伴うピットが29個（杭の跡と思われる）であり、遺物においては復元可能な土器は5～6点に過ぎない。これら、限られた遺構、遺物から今現在考えられる範囲において考察を試みて見よう。

遺構、遺物の出土する面は海拔6m前後で、現地表面は6.4m前後である。中央部において褐色土及び黒褐色土がレンズ状に約30cm前後の厚さで、地山が所々において隆起している間に堆積している。少し高くなった所に3号溝が低い方である西北へと流れている。まるで底湿地に沿うように存在する。

遺物を出土した所は大きく分けて二ヶ所。一つは第1区域、第2区域の平坦面からの出土、もう一つは第3区域、第4区域の3号溝からである。

レンズ状に堆積した褐色土及び黒褐色土中から出土した遺物は小さく摩滅した、風化の激しい物であり3号溝からの出土遺物は溶けるような状態で出土はしたが、出土時点では原型を比較的良く止めていた。割れ口もあまり摩滅していなかった。これらの事から3号溝の上流のあまり遠くない所に住居を伴う人の生活の場が在るのではないかと想像される。1号土坑は須恵器の小片を1個出土する遺構で時代を特定することはできないが器面調整から6世紀～7世紀までの物と思われる。2号土坑については出土遺物は無く不明。3号土坑は一部分の発掘にすぎない。遺物の出土も無い。安定層を掘り込み、すぐに埋め戻したらしく中土に安定層の土が多く含まれていた。1、2号溝及びそれに伴うピットは出土した土器片からは時代を特定することは出来なかったが弥生土器には間違いない。見た目にはかなり古い時期の物に思える。3号溝出土の土器はほぼ弥生後期終末期（V-3～4）の土器と思われる。第1区域、第2区域の平坦面からの出土遺物は3号溝出土遺物と同じ時期の物である。

中央部のレンズ状の褐色土及び黒褐色土の堆積が水田耕作に伴うものか否か、今回は確認できなかったが、多分に底湿地帯を利用した水田跡の可能性は大いに在ると考えている。

3号溝は自然水路を利用した人工的な水路であると思われ、水の流れを調整するかのよるような石の堰と思われる物（H-13区）も在り、底湿地帯の水抜きか、あるいは湿地帯への水の流出口か明らかではないが水門状遺構と思われる物（G-15区）等も在り3号溝は水田経営に伴う水路の可能性は十分考えられる。

追試掘により3号溝の東20～30mの所より弥生前期あるいは縄文晩期と思われる遺物が出土した。溝状の黒褐色土中から出土。これらは15～30cmの微高地を取り囲むようにして

存在する溝からの出土である。同じ層、同じ遺構からの出土である。これは長い時代を通じて、同じ所を選地して生活していたものと考えられる。これらの事は水田経営が長い時代を通じて営まれていたことを物語っているのではないだろうか。

以上のことから3号溝と、そこから出土した遺物とはどんな関係に在るのだろうか。

溝が作られ機能していた時期と、放棄されて機能しなくなった時期が考えられる。放棄された後に溝及び湿地帯に多くの土器のかけらが捨てられたと思われる。ではなぜ弥生後期末に遺棄されたのか。弥生期の水田は台地縁や微高地の緩斜面より沼沢地辺にかかる地帯に水田が営まれていた。腐植質シルト層が分布し、地下水位が湿潤地よりも低くかつ保水性に富むことが弥生期の水田開発及び経営に適していた。しかし後期末になり湿田、半湿田から半乾田化へと変化して行った。当遺跡はこの事を如実に表しているのではないだろうか。

縄文晩期から弥生前期に自然を上手に使うって水田農耕が営まれていたが後期末に農耕技術や土木技術の進歩により古い形の水田が遺棄され、そこへ不燃ゴミである土器が捨てられた。このような理由で初期農耕の水田跡が確認出来なかったのではないだろうか。

須恵器についてはI-10区から出土した24は床土とその下の層との間からの出土だったが高台等から8世紀半ば(III-4~IV)の物ではないかと思われる。床土下より出土の59、60、64は6世紀末(II)と思われ65は6世紀末よりは少し古いと思われる。

参考文献

松前町役場「松前町誌」

愛媛県「愛媛県史」-原始・古代I-

愛媛県埋蔵文化財調査センター「桑原稲葉遺跡」1990

岩波講座「日本考古学」-3. 生産と流通-

小田富士雄「九州考古学研究」-弥生時代編-学生社

愛媛考古学協会「愛媛考古学」12号1992

田辺昭三「須恵器大成」角川書店

